

徳島大学国際センター

2019年度

徳島大学国際センター

紀要・年報

紀要・年報

一〇一九年度

卷頭言

国際センター長 福井清

2040 年に向けた高等教育のグランドデザイン（中教審）として（1）多様な学生 （2）多様な教員（3）多様で柔軟な教育プログラム（4）多様性を受け止める柔軟なガバナンス（5）大学の多様な「強み」の強化が、提唱されています。徳島大学国際センターは、このグランドデザインと軌を一にして、本学の国際化を推進して参りました。発足以来、学内ののみならず、学外関係諸機関並びに地域の皆様から多大なるご指導・ご鞭撻を頂いておりまこと、卷頭にあたり教職員一同を代表しまして、厚く御礼申し上げます。

現在我が国の国立大学が置かれている環境は極めて厳しい中で、大学の国際化へは国民、産業界からの熱い期待が寄せられています。また、世界の高等教育機関のランキング評価でも国際性スコアが重要な項目となっております。国立大学協会や国際評価機関では、海外からの留学生数（外国人学生比率）、海外への留学生数（日本人学生の留学比率）、外国人教員数（外国人教員比率）、英語での授業実施科目数（外国語で行われている講座の比率）、海外からの受け入れ研究者数、海外への派遣研究者数、国際共同研究による共著論文数（国際共著論文割合）を国際化指標として挙げています。本学では、第3期中期目標期間中に 350 人以上の外国人留学生を受入れる目標を立てていますが、2019 年 12 月 1 日現在での受入数は 302 名で未だ道半ばであり、国際共著論文割合の向上が喫緊の課題であります。

本紀要は、2019 年度国際センターで行われました国際化推進の様々な取り組みについてご報告するものであります、ここでは特に下記の取り組みを紹介させて頂きます。

先ず、日本人学生のグローバル化教育を推進するため、高等教育研究センターと連携しまして、マレーシアマラッカ技術大学への短期海外留学プログラムを全学（72 名参加）で実施しました。また、他大学に先駆けて実施しています渡日前入学許可制度により、2019 年には新たに韓国ソウルの時事日本語学院から第 4 期生となる 4 名が来日しました。さらに、国際センターを拠点施設とする「留学生共同サポートセンターとくしま」が県の実施する「留学生県内定着促進事業」の一環として新たに開設されました。JETRO 徳島との共同事業も開始して「徳島県内の留学生を対象としたジョブフェア&交流会」を開催するとともに、留学生のための就職支援セミナー等を実施して、地域に定着する外国人高度専門人材の育成に努めています。

昨年度来懸案となっていましたバングラデシュ卒業留学生同窓会は 7 番目の海外同窓会として、めでたく設立されました。国内外に亘る皆様のご尽力に厚く御礼申し上げます。さらに、イスラエル工科大学（テクニオン）との学術交流確立に向けた新たな活動を開始して、国際共同研究体制構築を図っています。

本冊子は「年報」だけでなく、国際センター教員の研究成果も掲載しております。是非ご覧いただき、各教員の研究成果に対してご指導・ご意見を頂ければ幸いに存じます。

2020 東京オリンピック開催を記念する聖火ランナーにベトナム出身のセンター教員が選ばれました。徳島の地で花開く卒業留学生の代表として、高らかに聖なる炎を掲げ躍進してもらいたいと祈念しています。

2019年度 徳島大学国際センター 紀要・年報

目次

巻頭言

【紀要論文】

ネパールにおける網膜疾患診療サービス強化プロジェクト—Retina Eye Care of Nepal, RECON—	1
内藤 肇	1
Motivation for study abroad in Bangladesh: Learning from the Tokushima University Alumni	
TRAN Hoang Nam, Younus Ahmed KHAN and JIN Cheng Hai	9
International students' exposure to Japanese culture: Results from the field trips to Kyoto	
TRAN Hoang Nam and JIN Cheng Hai	13

【年報】

・国際センター担当事業	17
外国人留学生への指導・相談関連	17
・新入留学生に対するガイダンス	17
・留学生のための就職支援	17
・留学生受け入れおよび支援に関する活動	18
日本文化体験・国際交流関連	20
・日本文化・企業見学旅行（姫路・神戸）	20
・日本文化・企業見学旅行（京都）	20
・留学生文化理解促進のためのスタディツア（JFE スチール、岡山城）	20
・多文化体験交流会	20
・国際交流サロン 書道イベント	21
・Global Lunch	21
・国際シンポジウム、外国人留学生の卒業・修了を祝う会の開催	21
・学生サポート制度	21
国際協力関連	23
地域貢献	30
その他	31
・国際センター サマースクール「徳島であおう」	31
・高等教育センター学修支援部門国際教育推進班担当事業	36
日本語教育	36
・日本語研修コース	36
・総合日本語	42
・留学生のための英語	45
海外留学関連	49
徳島大学外国人留学生在籍状況	53
学術協定校一覧	55
国際センター・高等教育研究センター・国際課組織図	57
徳島大学国際センター規則	58
徳島大学国際センター運営委員会規則	60
徳島大学高等教育研究センター日本語研修コース規則	62
国際センター・高等教育研究センター・国際課人員名簿（2020年2月1日時点）	63

ネパールにおける網膜疾患診療サービス強化プロジェクト

—Retina Eye Care of Nepal, RECON—

内藤 豪

NAITO Takeshi

徳島大学国際センター

要旨:我々がネパールで実施した国際協力機構 (Japan International Cooperation Agency, JICA) の草の根技術協力事業「ネパールにおける網膜疾患診療サービス強化プロジェクト、Retina Eye Care of Nepal (RECON)」について報告する。RECON プロジェクトは徳島大学が受託した JICA 草の根プロジェクトで、ネパール国民が網膜診療サービスを容易に利用できることを上位目標として事業計画を立案した。2016 年から 3 年間のプロジェクトで、徳島大学で 1 カ月間研修した 4 名の眼科医が指導者となり、教育プログラムを作成し、眼科医、眼科助手、オプトメトリスト、看護師、ヘルスワーカー等の研修を行った。また、機材投入を行い 4 カ所の網膜センターを強化または設立した。さらに患者教育用パンフレットを作成し、網膜キャンプを開催して住民教育を行った。

その結果、ほぼ全ての活動項目で目標設定値を超える成果を達成した。RECON プロジェクトは自立継続可能な発展性のあるプロジェクトでネパールにおける医療プロジェクトの良いモデルとなり得る。

キーワード : 国際協力、JICA、草の根技術協力事業、失明原因、白内障、網膜疾患、糖尿病

1. はじめに

世界保健機関 (WHO) によると、近年、糖尿病患者数は増加傾向にあり、特に発展途上国でこの傾向が強い。それに伴い糖尿病網膜症の患者数も増加している。ネパールにおいても同様の傾向で、網膜疾患は 13.9% (1981 年) から 17.0% (2010 年) に増加している (The Epidemiology of Blindness in Nepal:2012)。この傾向は、今後さらに加速して悪化することが予想され、糖尿病網膜症を主とする網膜疾患が失明原因として上位になってくる可能性がある。

ネパールには約 200 名の眼科医が活躍しているが、網膜疾患に精通する専門医は少ない。同疾患に対する診断治療システムも不十分で、患者側にとって困難な状況が続いている。そこで JICA 草の根技術協力事業「ネパールにおける網膜疾患診療サービス強化プロジェクト、Retina Eye Care of Nepal (RECON)」を計画した。

本プロジェクト (以下 RECON プロジェクト) は、網膜疾患に対処する医療人材 (網膜疾患指導医、同疾患を診断できる一般眼科医、診断と予防についての知識のあるパラメディカル) を育成し、複数の眼科病院が連携する網膜疾患診療サービスを構築して、さらに、これらが自発・継続的に強化されることを目標

とした。

2. 事業計画

本プロジェクトは著者が事業計画書を作成し、JICA に承認された後徳島大学が受託した JICA 草の根技術協力事業である。事業実施期間は 2016 年 5 月から 3 年間で、総予算は約 8,000 万円であった。またネパール側のカウンターパートとして B.P. Eye Foundation (BPEF) が本プロジェクトの実行協力者となった。BPEF はネパールの NGO として実力のある団体である。プロジェクト協力病院としてはカトマンズではカウンターパートの BPEF が直営する Children's Hospital for Eye Ear and Rehabilitation Services (CHEERS)、Nepal Eye Hospital (NEH)、国立トリブバン大学附属病院の B.P. Koirala Center for Ophthalmic Studies (BPKLCOS) の 3 カ所で、さらにポカラの Himalayan Eye Hospital を加えた合計 4 カ所が協力病院として参加した。

2.1 上位目標: ネパール国民が網膜疾患診療サービスを容易に利用できる。

2.2 プロジェクト目標: ネパールにおける網膜疾患診療サービスが強化される。

2.3 アウトプット

- 網膜疾患治療技術が向上した医療従事者が増える。
- 網膜疾患診療センターが機能強化される。
- 網膜疾患診断を受診する人が増える。

2.4 活動

2.4.1 ネパール人網膜疾患指導医(Master Eye Doctor, MED)の養成

2.4.2 MEDが中心となり、網膜医療に関する研修を実施する。

- 眼科医師研修
- 内科医に対する網膜セミナー
- 眼科助手研修
- オプトメトリスト研修
- 看護師研修
- ヘルスワーカー(Female Community Health Volunteer:FCHV含む)研修

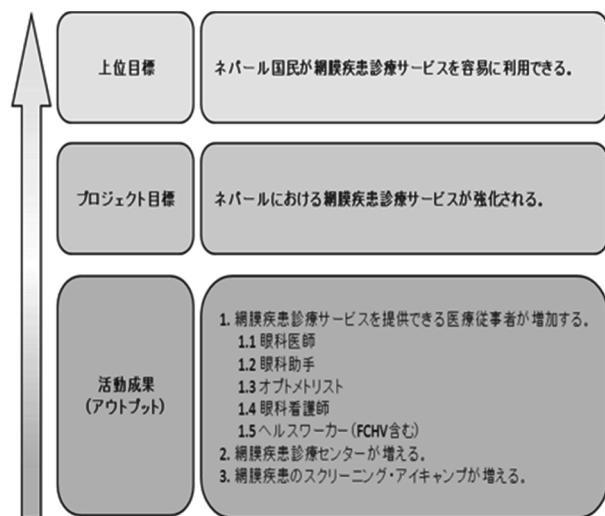
2.4.3 日本人講師による講演会・セミナーの実施

2.4.4 網膜疾患診療センターの開設・強化

2.4.5 網膜疾患スクリーニング・アイキャンプの実施

2.4.6 患者教育用パンフレット作成

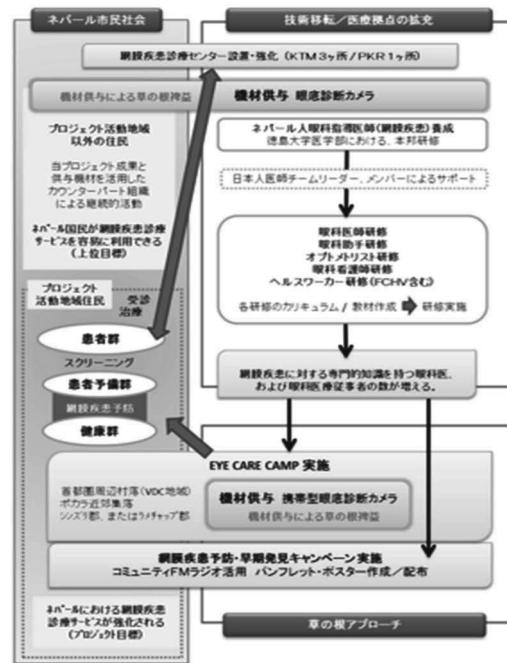
2.4.7 地方アイケアセンターの設立と運営



網膜センターの設立・強化のためには必要に応じて資機材投入を計画した。資機材投入の主なものは、眼底カメラ、ポータブル眼底カメラ、超音波断層系、検眼鏡、冷凍凝固装置、手術顕微鏡用広角観察装置等である。

RECONプロジェクトのプロジェクトエリアはカトマンズとポカラで、4カ所の協力病院(カトマンズ3カ所、ポカラ1カ所)から各々1名、

合計4名の眼科医が選択される。徳島大学で1カ月間研修した4名の眼科医が指導者(MED)となり、教育プログラムを作成し、眼科医、眼科助手、オプトメトリスト、看護師、ヘルスワーカー等の研修を行う。また、資機材投入を行い4カ所の協力病院の網膜センターの強化または設立を計画した。さらに患者教育用パンフレットを作成し、網膜キャンプを開催して住民教育を企画した。教育用パンフレットはネパール語および英語で作成し分かりやすいデザインを計画した。網膜キャンプで網膜疾患と診断された患者は網膜センターに紹介され、精査治療される。また4ヶ所の網膜センター間におけるネットワークの構築や、RECONプロジェクトの研修受講者や彼らの関連する医療機関とのネットワーク構築も計画した。またRECONプロジェクト終了後の持続的発展に配慮した計画となる様に、計画段階から現地関係者と討議を重ねて事業計画案を立案した。持続的に発展する事により「ネパール国民が網膜疾患診療サービスを容易に利用できる。」という上位目標を達成できると考えて計画した。



3. 結果

3.1 ネパール人網膜疾患指導医(Master Eye Doctor, MED)の養成

4ヶ所の協力病院(カトマンズ3カ所、ポカラ1カ所)から各々1名、合計4名の眼科医が選択され徳島大学で1カ月間研修した。現地での勤務状況を考慮し、2016年8月31日～9月28日と2017年1月31日～2月25日の2組に

分け、各 2 名の眼科医の研修が行われた。研修内容は座学、診療見学、実技体験で日本文化体験も内容に含めた。この研修期間中に、その後ネパールで行なわれる眼科医研修、内科医に対する網膜セミナー、眼科助手研修、オプトメトリスト研修、看護師研修、ヘルスワーカー(FCHV 含む)研修等のテキスト作成を行なった。また、患者教育用のパンフレット作成に着手した。

さらに 2018 年 7 月 29 日～8 月 10 日に第 2 回目の MED 本邦研修を 4 名同時に行なった。研修内容は 1 回目の研修結果をフィードバックし MED と検討して研修内容を決定した。その結果、近い将来ネパールで増加が予想される未熟児網膜症の診断と治療を主とし、徳島大学と近畿大学、大阪母子医療センターで合計 2 週間行った。徳島大学では未熟児網膜症の診断と治療の見学研修、豚眼を使用しての最新の硝子体手術手技の技術習得練習を行なった。大阪母子医療センターでは未熟児網膜症のスクリーニング法を学んだ。さらに近畿大学では小児網膜疾患の診断及び手術治療を見学した。



(第 1 回 MED 研修 : 眼科外来研修)



(第 1 回 MED 研修 : 手術手技実習)



(第 1 回 MED 研修 : 手術室見学実習)



(第 1 回 MED 研修 : 日本文化、阿波踊り体験)



(第 2 回 MED 研修 : 最新硝子体手術手技実習)



(第 2 回 MED 研修 : 近畿大学手術室見学)

3.2 眼科医研修

- ・研修目的：網膜疾患を適切に診断できる。
研修医の時には網膜疾患を勉強した経験が

あるが、最新の知見を学習することにより網膜疾患を適切に診断できることを目的とした。

・研修期間

研修期間は2週間とし4カ所の協力病院の網膜センターで各々1回、合計4回行なった。各研修の参加者は各々5名で、合計20名の研修を修了した。

・研修内容

MED や著者を含む指導者が研修プログラムを作成し講義を行なった。また実際に患者さんを診察しながら診断実技研修を行った。研修内容に関して毎日討議し、フィードバックして研修内容の習得を効率よく行った。

・研修評価

研修前後に試験を行い研修効果の判定を試みたが、研修後の試験では大部分の研修者で成績が向上し、著明に研修効果が認められた。また研修達成度や研修態度等に関して自己評価、指導者評価を行い研修の効率化を図ったが、概ね良好な結果となった。



(眼科医研修の様子)

3.3 内科医に対する網膜セミナー

・研修目的：糖尿病網膜症などの網膜疾患を理解する。

内科医と眼科医の連携は大切であり、失明原因としての糖尿病網膜症を代表とする網膜疾

患を理解することは重要である。

・研修内容

約3時間のセミナーで講義および質疑応答、討論をおこなった。

・研修結果

予定では各20名で2回開催の予定であったが、3回の研修で、内科医61名、眼科医10名、看護師5名が参加し、内科医と眼科医、看護師との交流が出来た。



(内科医研修の様子)

3.4 眼科助手研修

・研修目的：網膜疾患を理解し、代表的な網膜疾患の診断が出来る。

眼科助手は眼科医の仕事を補佐し簡単な治療も行っている。大部分の眼科助手は網膜疾患の診断をしたことがなく、眼科医の少ないネパールにおいて眼科助手の教育は重要である。

・研修期間

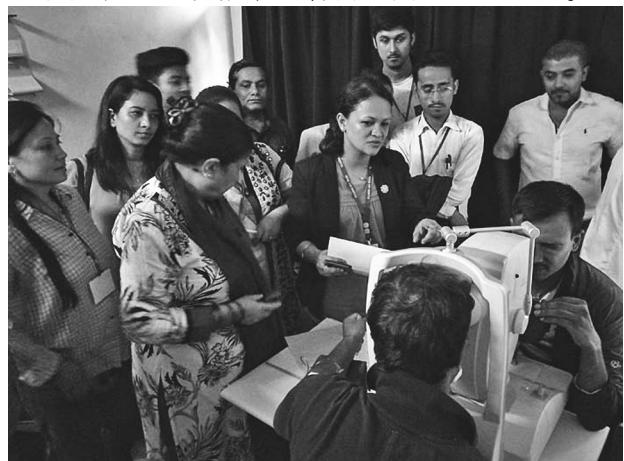
研修期間は1週間で、各10名で4回を予定したが、合計5回の研修会で48名が修了した。

・研修内容

講義及び実技体験で、眼科医と共に実際に患者さんを診察しながら実技体験を行った。

・研修評価

研修前後試験で研修評価を行ったが、大部分の研修者で試験結果が著明に向上了していた。



(眼科助手研修の様子)

3.5 オプトメトリスト研修

- ・研修目的：網膜疾患を理解し、代表的な網膜疾患の診断が出来る。

オプトメトリストも眼科助手と同様に眼科医を補佐しているので、眼科助手同様に医療人材として重要である。

- ・研修期間

眼科助手研修と同等で研修期間は1週間、各6名で2回の研修を予定したが、合計3回で16名が修了した。眼科助手研修と研修内容がほぼ同じなので眼科助手研修との同時開催も行った。

- ・研修内容

眼科助手研修と同様に講義及び眼科医と共に実際に患者さんを診察しながら実技体験を行った。

- ・研修評価

研修前後に試験を行ったが研修後の試験では大幅に成績が向上していた。



(オプトメトリスト研修での記念撮影)

3.6 看護師研修

- ・研修目的：代表的な網膜疾患を理解する。
- ・研修期間

研修期間は3日間で、2回の研修を行い、合計17人が修了した。

- ・研修内容

講義、眼底検査の実技体験、糖尿病網膜症に関してグループごとに学習内容を発表し討論した。特に研修生が発表することにより、患者さんに分かり易く説明できることを習得した。

- ・研修評価

研修前後試験で評価したが研修後の試験では大幅に成績が向上していた。



(看護師研修での発表および討論会の様子)

3.7 ヘルスワーカー (FCHV 含む) 研修

Female Community Health Volunteer (FCHV) を含むヘルスワーカーを対象として研修を行った。

- ・研修目的：網膜疾患を理解する。

- ・研修期間

研修は1日で、2回開催予定で20名参加予定であったが、28名が参加した。

- ・研修内容

講義を聴いた後、糖尿病網膜症に関してグループごとに学習内容を発表し討論した。地域の住民や患者さんに分かり易く説明できること、特に患者教育用パンフレットの内容を理解し説明出来るように研修した。



(ヘルスワーカー研修での発表討論会の様子)

3.8 日本人講師による講演会・セミナーの実施

- ・教育講演会

2016年11月にカトマンズで教育講演会を行った。この講演会では講師として筆者の他に徳島大学眼科から2名の眼科医が講師として参加した。



(教育講演会の記念撮影)

・特別講演会

2018年1月にカトマンズとポカラで特別講演会を行った。講師としては日本から筆者の他に3名の著明な眼科医が講師として参加した。



(特別講演会の記念撮影)

・最終講演会

2019年2月にカトマンズ近郊のドゥリケルで行われたネパール網膜硝子体学会年次総会で最終講演会を行った。この講演会には筆者の他に日本から3名の著明な眼科医が講師として参加した。

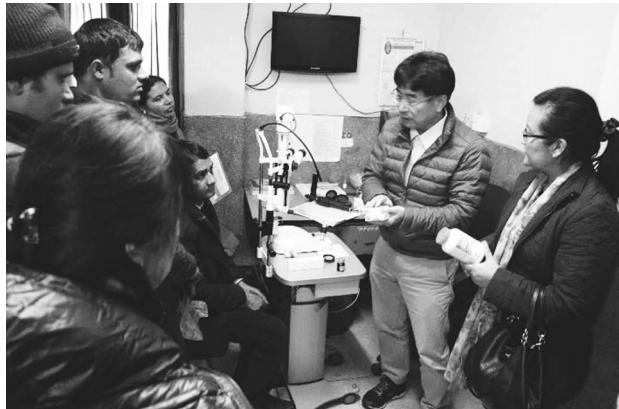


(最終講演会の記念撮影)

・症例検討会

2019年2月に最終講演会に引き続き、ポカラのヒマラヤ眼科病院で症例検討会を行った。難治症例を診察しながらネパール人眼科医にアドバイスしたが、特に網膜変性疾患の専門科が

来ていたので、患者さんや家族に適切なアドバイスが出来た。



(症例検討会の様子)

3.9 網膜疾患診療センターの開設・強化

プロジェクト期間中に3カ所（カトマンズ2カ所、ポカラ1カ所）の既存網膜診療センターが強化され、新たに2カ所（カトマンズ1カ所、ビルガンジ1カ所）のセンターが開設された。

当初1カ所の開設予定であったが、MEDの異動により新たに1カ所増加した。特にビルガンジはインド国境の町で交通の要衝でもあり、この地域の住民にとって網膜診療サービスの改善は重要であり、今後の網膜診療に裨益するところが大きいと思われた。

3.10 網膜疾患スクリーニング・アイキャンプの実施

プロジェクト期間内にカトマンズおよびポカラ市街地、村落部で合計8回行われ627人の住民が検診に訪れた。計画当初800人が受診の予定であったが、627人（78%）であった。アイキャンプで見つかった網膜疾患の患者さんは網膜疾患診療センターに紹介され、精査・治療された。

さらに、アイキャンプではカウンセリングや住民教育が行われた。





(住民検診の様子)

3.11 患者教育用パンフレット作成

本邦研修中にネパール人眼科指導医(MED)とプロジェクトマネージャー(PM)が原案を作成し、現地の意見を取り入れながら改訂した。英語とネパール語バージョンを作成し、識字にも配慮して分かり易いパンフレットとなるよう改訂した。

How can we prevent blindness?

- Well-balanced diet
- Sugar control
- Regular exercise
- Eye examination in every 6 months
- Adequate sleep
- No smoking
- Relieve stress
- Support from family and friends

Description/Memo

Diabetic Retinopathy

Have you had your six monthly eye examination?

Treatment

1. Laser therapy
2. Injection of Anti-VEGF
3. Vitreoretinal surgery
4. Low vision and Rehabilitation

Retina

Diabetic changes can occur rapidly without visual problems!

Normal retina of healthy people

Non-proliferative retinopathy

Proliferative retinopathy

If you have one or more symptoms, you may have advanced diabetic retinopathy. You should go see an eye doctor immediately.

You may lose vision without treatment.

Self-check!

- Diminution of vision
- Frequent change of glasses
- Floater(s)
- Visual field defect
- Distorted vision
- Photophobia

Check your eyes alternately one by one.

日本語バージョンのパンフレット

जोनिङका कारण

बहुमुखी लागेको अधिकारित उत्पत्ति र रक्तयान
उच्च योगदानीले जैविक रूपमा बढावाउँदै खानाको एक प्रतिशतले आकर्षणीय बनाउँदै। यसले दायरो सहज र आवाहन दिल्लोले अस्तित्वमा बढावाउँदै। जैविक अभियान जैसो उपचार उपचार दिल्लोले अस्तित्वमा बढावाउँदै। यसले नियन्त्रित रक्तयान जैसो उपचार उपचार दिल्लोले अस्तित्वमा बढावाउँदै। यसले नियन्त्रित रक्तयान जैसो उपचार उपचार दिल्लोले अस्तित्वमा बढावाउँदै।

डाइबेटिक रेटिनोप्याथी को दृष्टिकोण:

डाइबेटिक रेटिनोप्याथी लागेको पाच लागेको अधिक उपचार दिल्लोले अस्तित्वमा बढावाउँदै। यसले नियन्त्रित रक्तयानको अस्तित्वमा बढावाउँदै। यसले नियन्त्रित रक्तयान जैसो उपचार उपचार दिल्लोले अस्तित्वमा बढावाउँदै।

रोकथाम (Treatment Strategy)

विभिन्न तरिकाले अनुचित अवधिराम लागेको अस्तित्वमा बढावाउँदै। यसले नियन्त्रित रक्तयानको अस्तित्वमा बढावाउँदै। यसले नियन्त्रित रक्तयान जैसो उपचार उपचार दिल्लोले अस्तित्वमा बढावाउँदै।

जर्नल:

- आफ्नो वर्षमा तेहुल कालाहो र तुलना गराउँदै।
- आपातकालीन लागेको वर्षमा तुलना गराउँदै।
- दुखाफिल दुखालाएर दुखाने २ बाटा॑१०।

JICA RECON

徳島大学

मध्येहका कारण औसतको पटाङ्ग रोग
र
यसदाट हुने अर्थोपनवारे जानकारी तथा रोकथामको उपाय



डाइबेटिक रेटिनोप्याथी को हो ?

गम्भीर सामाजिक दमनको कारण अस्तित्वमा बढावाउँदै। यसले नियन्त्रित रक्तयानको अस्तित्वमा बढावाउँदै।

डिस्कले र डिस्कोमली जैसा छापेको हुनु।

अस्तित्वमा अव्यापक देखिएनु। यसले नियन्त्रित रक्तयानको अस्तित्वमा बढावाउँदै।

दुष्कर्त्ता र दुष्कर्त्ता जैसो लागेको अस्तित्वमा बढावाउँदै।

डाइबेटिक रेटिनोप्याथी को अस्तित्वमा बढावाउँदै। यसले नियन्त्रित रक्तयानको अस्तित्वमा बढावाउँदै।

यसले नियन्त्रित रक्तयानको अस्तित्वमा बढावाउँदै।

जानकारी तथा रोकथामको लागेको पाच लागेको अधिक उपचार दिल्लोले अस्तित्वमा बढावाउँदै।

जानकारी तथा रोकथामको लागेको पाच लागेको अधिक उपचार दिल्लोले अस्तित्वमा बढावाउँदै।

जानकारी तथा रोकथामको लागेको पाच लागेको अधिक उपचार दिल्लोले अस्तित्वमा बढावाउँदै।

जानकारी तथा रोकथामको लागेको पाच लागेको अधिक उपचार दिल्लोले अस्तित्वमा बढावाउँदै।

जानकारी तथा रोकथामको लागेको पाच लागेको अधिक उपचार दिल्लोले अस्तित्वमा बढावाउँदै।

(ネパール語での住民教育用パンフレット)
これらのパンフレットは看護師研修やボランティア研修での教材として使用し、アイキャンプや住民教育でも配布した。

3.12 地方アイケアセンターの設立と運営 遠隔地域に1カ所のアイケアセンターを設立

カウンターパートのBPEFの提案により、カトマンズ近郊の遠隔地域(Ramechhap)に地方アイケアセンターを設立した。カトマンズ近郊とはいっても交通は不便で、特に雨期には崖崩れなどの危険性があるため、日本側スタッフは視察に行く機会がなかった。このためカウンターパートが派遣した診療所職員とは交流がなく残念であった。

4.まとめ

ほぼ全ての活動項目で目標設定値を超える成果を達成した。特にプロジェクト終了後の持続発展に配慮してプロジェクトを実行した。その結果、独自に網膜硝子体フェローシップ等の教育システムを構築した協力病院があり、プロジェクト終了後の持続発展が期待できる。

本プロジェクトと同時にネパール網膜硝子体学会が設立され学会や教育活動を活発に行っている点は評価に値する。

本プロジェクトは自立継続可能な発展性のあるプロジェクトでネパールにおける医療プロジェクトの良いモデルとなり得る。

参考文献

Sapkota YD, Sunuwar M, Naito T, Akura J, Adhikari HK: The prevalence of blindness and cataract surgery in Rautahat district, Nepal. Ophthalmic Epidemiology. 17(2),82-89, 2010.

The Epidemiology of Blindness in Nepal:2012

JICA ホームページ

内藤 豊：ネパールにおける眼科国際医療協力：網膜疾患診療サービス強化プロジェクトの立案. 徳島大学国際センター紀要 2015

内藤 豊：眼科国際医療協力：私の経験から. 臨床眼科 71:5-10, 2017.

内藤 豊：JICA 草の根プロジェクト：私の経験から. 徳島大学国際センター紀要 2017

内藤 豊：国際協力における問題対処：私の経験から. 徳島大学国際センター紀要 2018.

Motivation for study abroad in Bangladesh: Learning from the Tokushima University Alumni

チャン・ホアンナム
TRAN Hoang Nam
International Center
Tokushima University

ヨウンス・アハマド・カーン
Younus Ahmed KHAN
University of Rajshahi

金 成海
JIN Cheng Hai
International Center
Tokushima University

要旨： バングラデシュは若者が多く、海外への留学ニーズが高まっている。日本に留学したバングラデシュ人は、帰国後に成功したキャリアを積む事例が多いが、バングラデシュでは日本語の人気ではなく、日本へ留学するバングラデシュ人も増加はみられない。今回、現在のバングラデシュ人の留学傾向、日本語の教育状況、日本への留学の動機および留学へのハードルを分析した。

キーワード：日本語教育、留学生、バングラデシュ

1. Introduction and Objectives

Tertiary enrolment in Japan is projected to decrease by over 25% between 2018 and 2031 due to low birth rates. Some national universities also face financial difficulties and operate below capacity. Attracting international students has been one strategy. Japan, as a major international education hub for higher education, is attracting more and more international students from many countries, is already going beyond the 300,000 international students target. However, statistics has shown that number of students enrolled at public universities which located faraway from metropolitan areas are not actually increased. Japanese universities are now putting more effort on attracting international students. So far, Bangladeshi students consist of a significant part among the number of international students in Japan. Many of them are successful in their further career as university professors, scientists and public officials in Bangladesh. Tokushima University (TU) is one of the attractive destinations for Bangladeshi students. Since the 90s', many Bangladeshi graduate students, researchers, scholars came to TU to study.



Figure 1. A classroom in the Rajshahi University

Mainly based on the data collected from discussion and opinion exchange with TU alumni from Rajshahi University, this paper is aiming to explore: (1) factors influencing decision making process for study abroad and current trends and preference of studying abroad for Bangladeshi students; and (2) situation of Japanese language education and possibilities for applying the “Pre-arrival admission system” or other possible cooperation.

2. Background

Bangladesh has a huge population and human resources. Education in Bangladesh is 5-3-2-2 system. The official language is Bengali. Some schools offer English-based education, but most citizens only speak Bengali.

Since the establishment of diplomatic relations in 1972, Japan has been contributing to the economic development of Bangladesh as the largest economic cooperation partner, and the relationship between the two countries is in very good condition. Japanese Embassy and JICA are major donors of scholarships for study and research in Japan. Study in Japan fair is regularly organized by JASSO.

Since 90s', more than 60 students, researchers and scholars graduated or completed their education in TU. About half of them have returned to Bangladesh, mostly have become professors and lead an active academic life in various universities of Bangladesh. As a result, the TU International Students Alumni Association (Bangladesh) has been established in February 2020 and headquartered at Rajshahi University.

3. Method

Data collection was conducted qualitatively by face to face discussion and opinion exchange with

Bangladeshi educators, professors, including alumni of TU and Japanese expats in Bangladesh.

The contents of discussion were focused on the motivation of Bangladeshi students to study abroad, factors related to study abroad decision, preferences of countries and destinations, career path after graduation, image of Japanese education system during the decision-making process etc.

Data collection was conducted at sites and meetings below: (1) Rajshahi University; (2) TU Alumni Association Meeting in Dhaka (07 February 2020); (3) Tokushima University.

4. Findings

4.1. Factors influencing decision making process for study abroad of Bangladeshi students



Figure 2. IT practice room in Rajshahi University

Higher education in Bangladesh over the past decades is improved with the establishment of more public and private universities. Bangladesh approved first private university in 1992. Now there are 95 such universities, in addition to the 37 public universities. Universities provide education in both Bengali and English media. However, many students prefer foreign education, which opens a portal to new opportunities. The number of Bangladeshi students going abroad for world-class degrees is increasing gradually. There are 60,390 Bangladeshis pursuing higher education abroad, including 34,155 enrolled at universities in Malaysia, 5,441 in the US, 4,652 in Australia, 3,599 in the UK, 2028 in Canada, 2008 in Germany, 1099 in India, 870 in Saudi Arabia, 810 in Japan (1.34%) and 637 in the United Arab Emirates (UNESCO Institute for Statistics, 2017). Several professors of Rajshahi University reported that the English-speaking countries are the destination of choice. Furthermore, even if the country's language is not English, then they may choose the university where English program is available. Traditionally,

the US, Canada, Australia, the UK, Germany and India are the most popular destinations, but in recent years, Asian countries like Malaysia, Saudi Arabia, Japan, China are also trendy. Despite having advanced education system, Japan's share is relatively low compared to other countries.

Factors influencing motivation of Bangladeshi students to go abroad are probably several. The students are going abroad can compete at global level and can find better employment prospects. Majority of these students do not return after completing their study or training and start living in foreign countries, especially English-speaking countries. Here often, professors give advises to students about their destination carefully, who want to go abroad for education and/ or research.



Figure 3. Laboratory Equipment at Rajshahi University

From educational perspective, inadequate facilities of Bangladesh education system is one of the major causes for brain drain. "The laboratories are ill equipped and the quality of education is very poor", a faculty staff said. Most of the universities have shortage of advanced equipment and laboratories, which is essential for experimental research. Shortage of highly qualified faculty staff is also a problem. "Socio-economic situation with no effective development such as traffic jams in Dhaka to limited employment opportunities in Bangladesh, that's why so many students are leaving the country", he said.

From economic perspective, usually Bangladeshi students going abroad are from the higher social status, but with time, students from higher middle class are also going abroad for world class degrees. Students now prefer the Malaysian universities because of lower education cost while many Malaysian universities have international collaboration, joint program with the UK, the US and other countries. Tuition fee per semester for

international students in Malaysia could be less than half of the average tuition fees in Japan, while cost for living is substantially lower.

However, despite much higher average tuition fee than Japan, the US, the UK or Australia still top the list of popular destination due to the native English language advantage.

Among English non-native countries, Germany stands out with full tuition exemption, abundant of scholarship and English course for undergraduate level. This is quite similar to situation of Japan; however, many Japanese universities are not providing undergraduate courses in English yet.

Many students who are interested to study in Japan say that their decision is influenced by their parents or relatives who have been studied in Japan. Most of them have some basic Japanese skills and have plan for applying for MEXT scholarship.

There are many other reasons that restrict potential students to go abroad besides factors of motivation, economic, preference etc. An engineer from Rajshahi University said: "I want to go to Japan for my master degree, however because I just became a government employee, so I have to wait for 2 years then they can give me a permission to go".

Recently, there is an increasing number of Japan-related companies interested in hiring local staff who can speak Japanese. Apparel-related companies require a certain level of Japanese language proficiency, as well as technical and business professional skills. "It seems that further expansion of Japanese companies will lead to an increase in the number of Japanese learners and an increase in willingness to study in Japan", a local lawyer said. "Bangladeshi society emphasizes degrees and certificates. That's why a foreign degree, including Japan degree is respected and essential for finding employment".

From the discussion with Japan alumni and local Bangladeshi, the motivation for studying in Japan is to get a degree, to improve qualifications and proficiency, to increase the chance for employment abroad or even in Bangladesh, and interest in Japan's cultures.

However, low share of students bound for Japan could be explained by constrained pulling factors of Japanese universities: (1) limited number of universities offer English program for undergraduate; (2) difficulty in studying Japanese language to the level that can pass EJU and entrance examination; (3) low chance for finding employment and settle in Japan; (4) limited number of scholarship and information on study on private expenses; (5) limited life conditions for Islamic population (halal food, praying etc.).

4.2. Situation of Japanese language education in Bangladesh

In Bangladesh, many Japanese language schools are in operation especially in Dhaka areas. The courses are mostly beginner or conversational level designed for students who intend to study in Japan, employees of local Japanese companies etc. According to a professor at Dhaka University, soon after the independence of Bangladesh, a Japanese language school was established in the Japanese embassy in Bangladesh in 1972, then Japanese was introduced as a foreign language course at the Faculty of International Relations, Dhaka University. From 1983 to the present, a four-year non-degree Japanese language course has been established with Japanese teachers dispatched from Japan Foundation and JICA. Since 2017, the Bachelor of Japanese Language and Culture course has been established at Dhaka University, which enrolled more than 200 students. The Japanese Universities Alumni Association in Bangladesh (JUAAB) was established since 2000, also has been running Japanese conversation courses.

A professor of Rajshahi University said that Japanese language course (beginner level) was started at Rajshahi University in 1996. Rajshahi University has Japanese certificate course offered by the Institute of languages for 60 lectures and a final examination.

According to a survey conducted by Japan Foundation in 2015, there are 37 institutions delivering Japanese education in Bangladesh, employing 94 teachers, with total number of learners exceeding 2,158 people. Among learners, 29.2% are university students, 5.9% are secondary students.

The Japanese Language Proficiency Test (JLPT) has been conducted since 2001, and the number of examinees is 946 (2017, 1st). In general, learners are concentrated on the JLPT N5.

Regarding motivation for studying Japanese, many learners aim to study abroad by MEXT scholarship or self-funded. They often completed the beginner level. For other learners who start studying Japanese in hopes of studying abroad or finding a job in the future, but overall interest in Japanese is not so high. Some learners are studying Japanese motivated by Japanese culture, ikebana, bonsai, Japanese cinema, karate, pop culture animation etc.

5. Conclusion

Japan has an important influence in Bangladesh in terms of economic collaboration projects executed by JICA and other Japanese enterprises. Japan also has a very strong intellectual presence in Bangladesh since many of Japan alumni have become influential intellectuals in Bangladesh. Bangladeshi students

have increasing need to study abroad for a higher degree. Bangladeshi people have friendly attitude towards Japan and have high interest towards studying in Japan. Japanese universities could strengthen pulling factors to attract more students from Bangladesh by: (1) introducing English program for undergraduate degree; (2) supporting Japanese language study; (3) supporting employment and settle in Japan; (4) increasing number of scholarship and information on part-time job for self-funded students; (5) providing supportive environment in and outside campus.

It seems not feasible to recruit undergraduate students by “Pre-arrival admission system” at this stage, because there are no Japanese language class for specialized subjects such as math, physics etc., as well as lacking of EJU preparation system.

However, recruiting graduate students could be possible. Bangladeshi universities have high interest on cooperation and exchange activities with Japanese universities. Organizing study fair, event, presentation sessions, personal counseling in collaboration with alumni to attract private students could be possible approaches for recruiting students.

References

- 国際交流基金 (2015). 2015 年度 海外日本語
教育機関調査
- UNESCO Institute for Statistics (2017)
- Dhaka Tribune (2018). Student exodus doubles in a
decade
- Newage Bangladesh (2018). Bangladeshi students
heading for univs abroad on rise
- Cui Bian (2017). International Students in French
Universities. Higher Education Press.

International students' exposure to Japanese Culture: Results from the field trips to Kyoto

チャン・ホアンナム

TRAN Hoang Nam

International Center,
Tokushima University

金 成海

JIN Cheng Hai

International Center,
Tokushima University

要旨：現在、多くの日本の大学が留学生の確保に力を入れている。今回注目する文化ツアーハは、より多くの留学生に日本の大学に興味を持ってもらうための一つの方法としてこれまでにも多くの大学で実践されてきたものであり、徳島大学国際センターでも、毎年、留学生のためにいくつかの見学旅行を開催している。その中でも、特に京都は日本文化を理解するため題材として最も有名で魅力的な場所であると考えられるが、今回の分析では、京都文化ツアーハに参加した学生の全体的な満足度、ならびにこの文化ツアーハで学んだことに関する具体的な内容や今後の日本文化ツアーハに関する留学生のニーズと関心について分析を行った。

キーワード：留学生、日本文化、京都

1. Introduction and objectives

Although there is an increasing need for studying in Japan and Japan is almost achieved the "300,000 international students plan", statistics has shown that number of students enrolled at public universities which located faraway from metropolitan areas are not actually increased. Tokushima University is now putting more effort on attracting international students. One of the efforts is to expose international students to the Japanese culture.

The Tokushima University International Center organizes several study trips for international students every year to the places inside and outside Shikoku island such as Kagawa, Hiroshima, Nara, Kobe, Osaka etc. Among the destinations, Kyoto is the most famous and attractive place for learning to understand Japanese culture.

This analysis is being conducted for clarifying (1) overall satisfaction of students after exposure to the culture tour; (2) specific contents about Japanese culture that students have learned and have interests during this culture tour; and (3) the future needs and interests of international students about Japanese culture.

2. Overview of the activity

2.1. Targets and timings:

This Japanese culture study trip to Kyoto is being organized by the International Center on annual every year. Participants are currently international students of the Tokushima University (undergraduate students, graduate students, exchange students, pre-entrance students at Josanjima campus). The implementation period is December or February in each fiscal year, two- day

tour, and a tour at each cultural spot takes about 1-2 hours.

This culture tour is focusing on the most famous cultural spots in Kyoto: (1) Golden Pavilion (Kinkakuji); (2) Kiyomizu Temple; (3) Fushimi Inari Taisha Shrine; (4) Sanjusangendo; (5) Imperial Palace (Gosho).

2.2. Major points to learn:

The teacher explained the outline of the cultural spot on the bus in advance about the basic concepts and knowledge that students were to understand:

Kinkakuji (World Heritage Sites) is a Zen temple in northern Kyoto whose top two floors are completely covered in gold leaf. It was originally a villa of a shogun, and according to his will it became a Zen temple after his death in 1408. Kinkakuji is an impressive structure built overlooking a large pond. It has burned down numerous times throughout its history. The present structure was rebuilt in 1955.

Fushimi Inari-taisha is the head shrine of the kami Inari. The shrine sits at the base of a mountain. Inari was the kami of rice and agriculture, but merchants and manufacturers also worship Inari as the patron of business. Each of roughly thousand torii was donated by a Japanese business.

Kiyomizu-dera Temple (World Heritage Sites) has the main hall, in which the eleven headed, thousand-armed Kannon Bodhisattva is enshrined, and the Kiyomizu Stage, which is the veranda of the main hall and extends over a precipice. "Kiyomizu" means "clear water." It takes its name from the Otowa Waterfall below the temple. Jisyu Shrine is a deity of marriage, once was a part of Kiyomizudera.

Nijo-jo Castle (World Heritage Sites) was

completed in 1603 on the orders of Tokugawa Ieyasu. The Castle served as the Kyoto residence of the Shogun. The 400-year-old Ninomaru-goten Palace, Kara-mon Gate and Ninomaru Garden, are unique survivals from the early Edo period.

Kyoto Imperial Palace had been the royal residence before the Meiji Restoration. The main feature of this palace is the Shishinden, where enthronement ceremonies have been held for more than 1,000 years. The other important landmarks include the Seiryoden and Otsunegoten or the earlier and last residence of the emperor, along with a strolling Oikenwa Garden.

3. Method

After completing the study tour, participants were asked to submit a self-administered questionnaire anonymously.

The questionnaire consisted of general evaluation about the study tour using 5-level scale ("not at all satisfied," "not satisfied," "satisfied," "more than satisfied," "very satisfied," numbering 1 to 5 as an interval scale). It also consisted of open-ended questions: "which place do you like the most?", "what was your impression about each place", "what impressed you about Japanese culture and people?", "where do you want to visit the next time for learning Japanese culture?".

The overall satisfaction of the participants was calculated by average score. Answers to the open-ended questions were classified by category qualitatively. The data for three consecutive years (2016~2018) was analyzed.

4. Results

4.1. Overall satisfaction

The overall satisfaction of the participants measured by 5-level scale was very high. The average score for overall satisfaction given by the participants was 4.9 points (2016), 4.8 (2017), and 4.6 (2018). The average score for the three times was 4.8.

Table 1. Overall satisfaction

	2016	2017	2018
very satisfied	34	33	27
more than satisfied	5	6	10
satisfied	0	1	2
not satisfied	0	0	0
not at all satisfied	0	0	0
Total	39	40	39

4.2. Impression about Japanese culture

The student-participants were in their 1st or 2nd year in Japan and have little exposure to Japanese

culture and for most of them, this is the first encounter to Kyoto. Some of the students have heard about Kinkakuji, Kiyomizudera or Fushimi Inari, but none of them have ever heard about Gosho or Sanjuysangendo. Basic knowledge and major information was explained to the participants in the bus (history, architecture, cultural values, characteristics etc.).



Figure 1. A group picture at Fushimi Inari (2018)

4.2.1. About Japanese culture

After the tour, participants have shown very high impression on what they have experienced about Japanese culture in Kyoto. They realized that Japan has very old and unique culture cultivated through a very long history. Most of the comments are such as: "Japan is the most beautiful, clean and peaceful country", "Everything was different and unique", "mature culture and interesting traditions", "Japanese culture is diverse and attractive", "Japan follows and follows culture".

4.2.2. About Japanese history

Many students said that they have learned something about Japanese history and became interested in knowing more about history. Some have shown interest in the history of Kyoto and the turning point of Japan when the capital has been moved to Tokyo. After visiting Gosho, students have learned more about the history of the Japanese imperial family, and it has become a topic of interest.

4.2.3. About Japanese religion

Participants were impressed about Kyoto in such voices: "I was really surprised. Many shrines and temples", "Japanese pray eagerly for respect and good luck to God". The key concepts of Shinto and Buddhism were not familiar among students before the trip. After visiting the places, they came close to realize about spiritual life of Japan and be able to differentiate the concepts of Japanese religions such as between "temple" and "shrine". The understanding of Japanese shrines and temple

culture went deeper, as “In Japan, I feel that Buddhism is very well developed in addition to Shinto”, “I learned the culture of Japanese God”, “I learned a lot about Japanese religion, temples and shrines”.

4.2.4. About architecture



Figure 2. Exploring the Imperial Palace (2017)

The students realized the unique architectural style in Kyoto as a mixing between modern and traditional styles. “There were many temples, shrines and towers. Everywhere was clean”, “Japanese aesthetics are sufficiently detailed”, “It is surprised that a new building and an old building are adjacent without looking contradicted to each other”, “harmony among old and new streets and high-tech industrial parks is not impossible”, “I felt the uniqueness of the architectural style of Japanese shrines and temples”, “Wonderful carpentry of wooden construction”, “The old building in Japan was very wonderful”. Students said some comments in comparison to Tokushima: “Kyoto is more international than Tokushima as there are many foreign tourists”, “I learned the difference between a famous big town and a small Kitajima town”.



Figure 3. Taking picture at Kinkakuji (2017)

4.2.5. About cultural preservation

Participants realized the importance of protection cultural heritage such as temples.

“Japanese people are very disciplined in terms of cultural property protection”, “I look at the World Heritage sites and understand it well, then I have gained a more serious understanding of Japanese traditional culture”. Not only old buildings, but also invisible values are well preserved. “Japanese kimono is very beautiful. The kimono culture is well preserved”.

4.2.6. About Japanese people

Participants still have some time to observe and interact with Japanese people during the tour. “Japan is a modern country but Japanese people are kind and value their own culture”, “Japanese people are kind and cute”, “Polite and compassionate attitude”, “Well organized, kind and helpful”. Some participants could “gradually understood the Japanese way of thinking and personality”, “It was wonderful because they care of the details”, “Japanese are punctual”. Besides, Japanese people seems to be very religious: “Japanese people often believe in shrines and temples”, “Japanese are superstitious and obedient to religion”.

4.2.7. Skills and lessons learned

Participants reported that they gained some specific skills and lessons during the tour. They reported that “I learned manners at shrines and temples”, “Is was important how to wash your hands before entering the temple”, “I observed people to get red seal (shuin) stamped for worshippers and visitors to Shinto shrines and Buddhist temples in Japan”, “I bought a charm (omamori) for good luck of myself”, “Kimono was very cute, many people are wearing kimono”, “We learned a lot about the culture of Uji Matcha”. Moreover, they “learn to value traditional culture”, “learn Japanese history, religion and culture”. Participants had a great experiences trying street (yatai) food of Kyoto: “I tasted Japanese food in Kyoto. was delicious”, “I understand Japanese culture and food well”. Participants also used this chance to interact with each other. “I made friends on this tour. I’m happy”.

4.3. About continuity and improvement

Majority of the comments emphasized on the need to continue this kind of Japanese culture study tour “because it was a very good study about Japan”, “I thought it would be nice to have more such trips”, “It was plenty of learning and discoveries”, “I was able to experience Japanese culture, learn Japanese history and religion”, “I want such a tour to be held twice a year”.

The trip was evaluated as very exciting and well organized, however some improvements were suggested. Some participants felt that it may need more time for activity. “There was not enough time to read the explanations and interact with everyone”, “It is difficult to understand without a professional

guide”, “I want another day to avoid getting tired”, “Not enough meal time”, “Travel is wonderful, the longer the better!”. Some participants even want to have more activities: “no place to go in the evening”, “better to have onsen at the hotel”, “it could be more fun if we had a party”.

4.4. Future needs for studying Japanese culture

After visiting Kyoto cultural spots, the participants have shown a huge interest to see and learn more about Japanese culture. The desired destinations and categories of interest collected from participants in three years 2016~2018 are shown in Table 2.

Table 2. Places and contents want to visit in future

Category	Future needs for study visit 2016 ~2018
Kyoto	Ginkakuji, Heian Shrine, various temples, Gion, Arashiyama, Anime museum, Life museum etc.
Cities	Hiroshima, Nagasaki, Kobe, Nara, Osaka, Tokyo, Hokkaido, Okinawa
Temples	Sensoji, Honnoji Various shrine, temples with history
Castles	Himeji, Nagoya, Kumamoto, Fukuyama
Arts	Festivals, kabuki, Japanese dance, tea ceremony, matcha making, sake making, cuisine, manga, anime, Japanese sword, fireworks, traditional houses, clothes/kimono, sumo
Places	Mount Fuji, Matsushima, Amanohashidate, Miyajima, Otaru, Kamakura, Asakusa, Various mountains, hot springs, seaside

5. Conclusion

International students who participated in this study tour have gained basic concepts about Japanese culture, experienced the key cultural spots of Kyoto, deepened their understanding of the historical value of Kyoto and have shown their interest to learn more about the Japanese culture. The tours organized have a role of triggering the curiosity and interest of international students towards Japan, contributing to increased interest in Japanese culture. Students are changing their mentality towards Japan and have shown curiosity and willing to learn more about Japanese culture after this exposure.

International students also stated their future need to visit and learn about historic places and traditional Japanese culture country-wide. In order to broaden international students' perspectives on Japanese culture, it is necessary to continue similar tours, as well as to create more opportunities to go to cultural places outside Tokushima prefecture. Based on these needs, it is important for universities to consider educational opportunities so that international students can increase their motivation to understand Japanese culture.

References

- チャン ホアンナム (2019). 留学生の日本文化理解への効果とニーズ~日本文化スタディツアーより,
令和元年度全学 FD 推進プログラム・大学教育カンファレンス in 徳島, 62-63.
齋藤, 真理子 (1997). 留学生対象の研修旅行の意義に関する一考察, 文化女子大学紀要. 人文・社会科学研究 5 (1997-01) pp.265-277.

国際センター担当事業

外国人留学生への指導・相談関連

本学に在籍中の留学生だけでなく、留学生の家族、外国人研究者および学外の徳島大学入学希望する留学生を対象とした指導・相談を、常三島地区の「国際センター・国際課」と蔵本地区の「国際交流室・国際課蔵本分室」の二か所で行っている。常三島地区では常時相談対応が可能となっている。蔵本地区では事務職員1名が常時対応にあたり、加えて金曜日午後に教員1名が協力して対応にあたっている。面談、電話、メールなどの形式で中国語、英語、韓国語、ベトナム語の四ヶ国語で対応できる体制が整っており、メンタルヘルスに関するカウンセリングが必要な場合は、キャンパスライフ健康支援センター及び専門医と連携することで対応している。

相談内容で最も多いのは、一般的な進学・修学、授業料・奨学金、住居、生活、日本での就職などであるが、他機関・学内関係部局及び関係者と連携しながら対応しないと解決できない内容（例えば、窃盗事件、交通事故、家賃未納（不納）、不動産のトラブル、メンタルヘルスなどに関するもの）もあり、これら比較的複雑な相談に対しても数件対応している。

● 新入留学生に対するガイダンス



新入留学生ガイダンスは、本学に入学した留学生に対し、修学・生活に関する指導を行い、留学生活の円滑化を図ることを目的として、年2回（前期及び後期）常三島・蔵本キャンパスで開催しているものである。ガイダンスでは、国際センター教員から、学生生活や日本での日常生活に関する注意事項について説明するとともに、徳島中央警察署から講師を招き、防災や交通安全などについて解説して頂いた。特に、近い将来必ず発生すると言われている南海トラフ巨大地震への備えとして、緊急地震速報の内容や地震発生の際の避難方法について詳しく説明して頂き、学生は真剣な表情で耳を傾けていた。さらに、学生は災害時に避難スキルの練習もできた。ガイダンス終了後には、徳島地域留学生交流推進協議会の関係機関から寄付していただいた食料品や日用品等を希望者に配付した。



前期ガイダンス：4月25日（木）に常三島地区、5月9日（木）に蔵本地区で開催。計25名が参加。

後期ガイダンス：10月18日（金）に常三島地区、10月24日（木）に蔵本地区で開催。計51名が参加。

● 留学生のための就職支援

・留学生のための就職支援セミナー

今年度は「留学生のための就職支援セミナー」というタイトルで10回セミナーを行った。参加合計人数は81名。開催した日付、タイトル、参加人数は以下のとおり。



第1回：5月10日（金）	18:00～19:30 「日本の就活を学ぼう」
	参加人数：16名
第2回：6月18日（火）	12:00～12:50 「インターンシップについて学ぼう」
	参加人数：9名
第3回：6月21日（金）	12:00～12:50 「グループディスカッションの準備をしよう」
	参加人数：2名
第4回：6月28日（金）	12:00～12:50 「グループディスカッションの復習をしよう」
	参加人数：7名
第5回：7月4日（木）	12:00～12:50 「個人面接の復習&対策をしよう」
	参加人数：2名
第6回：7月11日（木）	12:00～12:50 「ビジネスマナーの基本を学ぼう」
	参加人数：1名

第7回：10月21日（月）	18:00～19:30「就職サイトの使い方」 参加人数：8名
第8回：11月15日（金）	18:00～19:00「エントリーシートの書き方」 参加人数：2名
第9回：12月13日（金）	18:00～19:30「日本で働くための在留資格とこれからの就活」 参加人数：18名（学内留学生14名、学外留学生1名、学外関係者3名）
第10回：12月20日（金）	18:00～19:30「先輩留学生から就職体験を聞こう」 参加人数：16名（学内留学生13名、学外留学生2名、学外関係者1名）

・留学生共同サポートセンターとくしま

今年度7月から、県内高等教育機関と徳島県が連携し、「留学生共同サポートセンターとくしま」事業が開始された。留学生のための就職支援として以下のイベントを共催して実施した。

外国人留学生対象の就職支援セミナー

開催日：12月13日（金） *上記第9回セミナーを参照
開催日：12月20日（金） *上記第10回セミナーを参照

外国人留学生を対象とした、県内企業のジョブフェア&交流会

日時：2020年1月22日（水）18:00～20:00
場所：徳島大学フューチャーセンター A.BA
参加人数：26名（学内留学生25名、学外留学生1名）

外国人留学生を対象とした、県内企業見学バスツアー

日時：3月3日（火）12:30～17:00 徳島駅発着
訪問先企業：大塚テクノ株式会社、四国化工機株式会社
*新型コロナウイルス感染拡大防止のため、中止

のべ107名の留学生らが参加し、日本での就職に必要な支援を提供することができた。留学生の日本企業就職への関心は年々高まっているが、日本の就職活動のシステムをよく知らないために、日本人学生に比べて後れを取ってしまうことがある。国際センターでは、日本での就職を希望する留学生に必要な情報を得られる機会を設け、安心して就職活動を行えるよう支援していきたいと考えている。

● 留学生受け入れ及び支援に関する活動

渡日前入学許可制度

2015年度にベトナムドンズー日本語学校（ホーチミン市）と協定を結び、徳島大学の学部への入学を目的とする「渡日前入学許可制度」を創設した。本制度はドンズー日本語学校からの推進を受け、書類審査、遠隔面接などを経て入学を許可するものであり、受験者の入学前來日が不要となる。本制度で入学が許可された留学生に対しては、検定料・入学料・授業料免除と初年度の奨学金（288,000円/6ヶ月）を支給する。また、対象留学生の日本語力を強化するため、入学前に本学で半年間の日本語等予備教育を実施する。留学生の受け入れ部局は理工学部と生物資源産業学部に加え、2018年度には新たに総合科学部が加わった。

本制度の第一期留学生の2名は2016年10月に来日し半年間の日本語予備教育を終え、翌年4月には理工学部と生物資源産業学部へそれぞれ入学した。第二期留学生の3名は2017年10月に来日し半年間の日本語等予備教育を終え、翌年4月には理工学部（2名）と生物資源産業学部（1名）へ入学した。2018年10月には第三期生の3名が本学での日本語等予備教育を開始し、翌年の4月に理工学部（2名）と生物資源産業学部（1名）に入学した。また、2018年に新たに韓国でも渡日前入学許可制度による入学試験を実施した。2019年4月に2名の学生が理工学部に入学し、同年10月にはまた別の2名の学生が来日し、本学での日本語等予備教育を開始した。2020年4月には、2019年10月に来日した2名に加え、8名の韓国人学生が生物資源産業学部、理工学部に入学を予定している。

	学生数	来日	入学	内訳
第一期	2	2016年10月	2017年4月	理工学部（1名） 生物資源産業学部（1名）

第二期	3	2017年10月	2018年4月	理工学部（2名） 生物資源産業学部（1名）
第三期	3	2018年10月	2019年4月	理工学部（1名） 生物資源産業学部（2名）
第四期	2	2019年4月	2019年4月	理工学部（2名）
	2	2019年10月	2020年4月（予定）	生物資源産業学部（2名）
第五期	8	2020年4月（予定）	2020年4月（予定）	生物資源産業学部（1名） 理工学部（7名）

主な活動

- 4月 新入学生に対するガイダンスの実施（常三島）
 5月 新入学生に対するガイダンスの実施（藏本）
 6月 渡日前入試募集説明会（韓国・ベトナム）
 7月 日本留学フェア（台湾）に参加
 8月 サマースクール「徳島であおう」を開催
 9月 渡日前入試面接の実施（韓国・ベトナム）
 10月 新入学生に対するガイダンスの実施（常三島・藏本）
 12月 外国人留学生のための就職支援セミナー
 1月 日本留学フェア（マレーシア）に参加

日本文化体験・国際交流関連

● 日本文化・企業見学旅行（姫路・神戸）

6月15日（土）に日本文化企業見学旅行を実施した。本見学旅行は、留学生が日本の文化や歴史、防災技術への見聞を広め、留学生同士の交流を深めることを目的としている。

最初に見学した姫路城では、天守閣への狭い階段に汗をかきながらチャレンジし、登り切ったときには一様に笑顔がもれた。日本の伝統建築を間近で観ると同時に、実際に歩いてみることにより、その広さ、壮大さを体感した様子だった。

人と防災未来センターでは、係員の方の説明を聞きながら、留学生が阪神・淡



路大震災の経験を理解し、その教訓を未来に生かすことを学び、防災意識の向上できた。迫力のある震災の映像を見、津波からの避難体験など、震災や防災に関する様々な内容を学ぶことができた。

今回の見学旅行には、留学生35人が参加した。日本を理解するだけではなく、様々な国の留学生同士がお互いを理解し、交流する機会となつた。



● 日本文化・企業見学旅行（京都）

2020年2月12～13日、留学生日本文化・企業見学旅行を実施した。本見学旅行は、留学生が日本の文化や歴史（金閣寺、京都御所、伏見稻荷大社、二条城、清水寺）や技術（サントリー京都ブルワリー）への見聞を広め、留学生同士との交流を深めることを目的としている。

見学した金閣寺、京都御所、伏見稻荷大社、二条城、清水寺では、日本の伝統建築を間近で観ると同時に、実際に歩いてみるとことにより、その広さ、壮大さを体感した様子だった。

見学したサントリー京都ブルワリーでは、説明動画を見た後、係員の方の説明を聞きながら、製造ラインや展示場を見学し、日本の技術についても理解を深めた。

今回の旅行には10か国から留学生39人が参加した。日本を理解するだけではなく、様々な国の留学生同士がお互いを理解し交流する機会となつた。



● 留学生文化理解促進のためのスタディツアーリー（JFEスチール、岡山城）

12月25日（水）、留学生32名と日本人学生サポーター4名、地域サポーター1名が参加し、JFEスチール、岡山城を訪問した。本ツアーリーは、留学生が日本人学生や地域住民と交流しながら、地域の歴史や地元企業への理解を深めることを目的としている。日本人参加者にとっても、留学生への説明を通して自文化に対する理解を深める機会になった。

● 多文化体験交流会

11月6日（水）に、徳島大学工業会館で多文化体験交流会を開催した。多文化体験交流会は、国際センターと徳島地域留学生交流推進協議会が主催するもので、大学祭の時期に合わせて、徳島地域の外国人留学生や日本人学生、地域の方々が交流を深めるために平成14年から毎年行われている。

当日は、多数の留学生、日本人学生、地域の方々等、約140人が参加し、留学生によるダンスや歌の演奏が披露された。本交流会を通して直接触れ合うことにより、様々な国の文化の豊かさを感じることができる良い機会となつた。



● 国際交流サロン 書道イベント

6月1日に常三島キャンパスで書道体験イベントを開催した。国際センターと国際交流サロン（JSS）が主催するもので外国人留学生や日本人学生、地域の方々が書道体験しながら国際交流を深めるために行われている。

今回は「地域・日本人学生とともに体験する書道」というテーマで、本学外国人留学生9名、日本人学生3名、地域サポートー5名が参加した。

書道体験の後、茶話会を開いて、留学生と日本人が日本語で活発に交流した。



● Global Lunch

Global Lunchは、徳島大学の外国人留学生と日本人学生がランチを食べながら英語・日本語をはじめとする多言語で交流する場である。

2017年度後期から試験的に開始し、2019年度前期には4月から7月までの毎週水曜日の昼休みに計13回実施し、延べ400名の学生が参加した。2019年度後期には10月から1月までの毎週水曜日（途中から木曜日に変更）に計13回実施し、延べ244名が参加した。

中国、韓国、スウェーデン、モンゴル、フランス、インド、インドネシア、フィリピン、ウガンダなどからの外国人留学生と日本人学生が、大学生活について質問し合ったり、互いの文化を紹介したりして交流を深めた。Global Lunchでは、日本人学生・外国人留学生が所属・研究分野・国籍を超えてつながり、双方の文化を学び合う場を目指している。また、Global Lunchは異文化への理解を深めると同時に、外国語の運用力を高める実践の場であり、2018年度から開始した語学マイレージ・プログラムの加算対象活動である。

Global Lunch 参加者数推移		
開催時期（回数）	参加人数	うち留学生
2017年度後期（7回）	45	17
2018年度前期（11回）	275	28
2018年度後期（12回）	283	151
2019年度前期（13回）	400	93
2019年度後期（13回）	244	132



● 国際シンポジウム、外国人留学生の卒業・修了を祝う会の開催

今年度は2020年3月6日（金）に予定をしていたが、新型コロナウィルス感染拡大防止のため中止することとなった。

● 学生サポーター制度

本学外国人留学生をサポートし、交流活動を支援する「学生サポーター」（本学日本人学生）がある。センターが実施する日本語教育には①集中講習型の日本語研修コース、②外国人留学生・研究者・研究生とその家族対象の総合日本語コースがあり、各クラスの要請に応じて学生サポーターや地域サポーター（30ページ参照）に授業や日本文化体験イベントへの参加を要請している。また、サマースクールをはじめ、センターで行われる事業のサポートも依頼している。

学生サポーターには107人（2020年2月28日現在）が登録している。

主な活動

月日	内容	学生サポーター
8月7日	国際センター サマースクール 交流会、キャンパスツアーや等	14名
10月8日	日本語研修コース キャンパスツアーや等	1名
12月25日	スタディツアーや (姫路城、JFEスチール)	4名

国際協力関連

2016 年に開始した JICA(日本国際協力機構)の草の根技術協力プロジェクトが最終年度となるため 2018 年も頻繁にネパールへ渡航した。ネパールへは 1 月、2 月、3 月、4・5 月、7 月、11 月の 6 回渡航し、6 月にはモザンビークで眼科医療支援（アイキャンプ）を行った。また医学部がモンゴルでモンゴル医科大学附属病院建設プロジェクトを行っているため、モンゴルへも 2 月、3 月の 2 回渡航した。さらに 8 月にはザンビアへ現地視察に渡航した。

ネパール 1月 JICA プロジェクト（徳島大学、JICA 予算）

1月 14 日 (月)	夕方、徳島から羽田へ移動
1月 15 日 (火)	羽田～バンコク～カトマンズ
1月 16 日 (水)	～17 日(木) JICA プロジェクト業務
1月 18 日 (金)	カトマンズからビルガンジへ移動、 ビルガンジで内科医セミナー指導
1月 19 日 (土)	ビルガンジからカトマンズへ移動
1月 20 日 (日)	日本大使公邸でのレセプション出席
1月 21 日 (月)	カトマンズからビラトナガールへ移動、 ビラト眼科病院視察および技術指導、 ビラトナガール医科大視察
1月 22 日 (火)	ビラト眼科病院で手術指導、カトマンズへ移動
1月 23 日 (水)	～1月 24 日 (木) JICA プロジェクト業務
1月 25 日 (金)	帰国の途に就く
1月 26 日 (土)	帰国

ネパール 2月 JICA プロジェクト（徳島大学、JICA 予算）

2月 4 日 (月)	夕方、徳島から羽田へ移動
2月 5 日 (火)	羽田～バンコク～カトマンズ
2月 6 日 (水)	JICA プロジェクト業務
2月 7 日 (木)	JICA プロジェクト終了式典
2月 8 日 (金)	ネパール網膜硝子体学会総会に出席
2月 9 日 (土)	ネパール網膜硝子体学会総会の JICA プロジェクトセッションで講演
2月 10 日 (日)	カトマンズからポカラへ移動、ヒマラヤ眼科病院で症例検討会
2月 11 日 (月)	ポカラからカトマンズへ移動
2月 12 日 (火)	～2月 14 日 (木) JICA プロジェクト業務
2月 15 日 (金)	帰国の途に就く
2月 16 日 (土)	帰国

モンゴル 2月 JICA プロジェクト（徳島大学、JICA 予算）

2月 19 日 (火)	徳島～関空～インチョン～ウランバートル
2月 20 日 (水)	モンゴル医科大学附属病院建設現場視察
2月 21 日 (木)	モンゴル医科大学関連病院視察。技術指導
2月 22 日 (金)	帰国

ネパール 3月 JICA プロジェクト（徳島大学、JICA 予算）

3月 6 日 (水)	関空～バンコク
3月 7 日 (木)	APAO 出席
3月 8 日 (金)	APAO 出席
3月 9 日 (土)	バンコクからカトマンズへ移動
3月 10 日 (日)	JICA プロジェクト業務
3月 11 日 (火)	JICA プロジェクト業務、現地事務所閉鎖、在ネパール日本大使と面談
3月 12 日 (水)	JICA ネパール事務所でプロジェクト完了報告
3月 13 日 (木)	帰国の途に就く
3月 14 日 (金)	帰国

モンゴル 3月 JICA プロジェクト（徳島大学、JICA 予算）

3月 19 日 (火)	徳島～関空～インチョン～ウランバートル
-------------	---------------------

3月 20日 (水) モンゴル医科大学附属病院建設現場視察
3月 21日 (木) モンゴル医科大学関連病院視察、技術指導、医科大学で講義
3月 22日 (金) 帰国

ネパール 4月・5月 JICAプロジェクト(徳島大学、JICA予算)

4月 27日 (土) 関空～香港～カトマンズ
4月 28日 (日) ～4月 30日 (火) トリップバン大学附属病院眼科で診療・技術指導
5月 1日 (水) カトマンズからポカラへ移動。ヒマラヤ眼科病院で眼科助手指導
5月 2日 (木) ポカラからカトマンズへ移動
5月 3日 (金) 小児眼科病院で技術指導
5月 4日 (土) 帰国の途に就く
5月 5日 (日) 帰国

モザンビーク眼科医療支援プロジェクト(独自プロジェクト)

6月 11日 (火) 出国、関空～ドバイ (エミレーツ航空)
6月 12日 (水) ドバイ～ヨハネスブルグ～マプト (エミレーツ航空、南アフリカ航空)
6月 13日 (木) マプトからシャイシャイへ移動。シャイシャイ病院訪問
6月 14日 (金) 患者診察および手術場を設営
6月 15日 (土) 71人の白内障手術施行
6月 16日 (日) 術後回診、72人の白内障手術施行
6月 17日 (月) 術後回診、73人の白内障手術施行
合計 216人(218眼)の白内障手術終了
6月 18日 (火) 術後回診、器材梱包、撤収後マプトへ移動、JICA事務所訪問
6月 19日 (水) 帰国の途に就く、マプト～ヨハネスブルグ～ドバイ
6月 20日 (木) ドバイ～関空

ネパール 7月 (徳島大学)

7月 19日 (金) 夕方、羽田へ移動
7月 20日 (土) 羽田～バンコク～カトマンズ
7月 21日 (日) ～7月 23日 (火) トリップバン大学医学部附属病院眼科で技術指導
7月 24日 (水) 悪天候のためポカラへの移動をキャンセル
7月 25日 (木) 小児眼科病院で技術指導
7月 26日 (金) 帰国の途に就く
7月 27日 (土) 関空に帰国

ザンビア眼科医療状況視察(自費)

8月 19日 (月) 夕方、羽田へ移動
8月 20日 (火) 羽田～ドバイ～ルサカ(ザンビア)
8月 21日 (水) ～22日 (木) 現地病院視察
8月 23日 (金) 帰国の途に就く。ルサカ～ドバイ
8月 24日 (土) ドバイ～羽田
8月 25日 (日) 羽田～徳島

ネパール 11月 (徳島大学)

11月 12日 (火) 夕方、羽田へ移動
11月 13日 (水) 羽田～バンコク～カトマンズ
11月 14日 (木) 空路メチへ移動。メチ眼科病院で技術指導
11月 15日 (金) メチ眼科病院で技術指導
11月 16日 (土) メチからカトマンズへ移動
11月 17日 (日) ～11月 19日 (火) トリップバン大学医学部附属病院眼科で技術指導。
11月 20日 (水) カトマンズ～ポカラ。ヒマラヤ眼科病院で技術指導。
11月 21日 (木) ポカラ～カトマンズへ移動。
11月 22日 (金) 帰国の途に就く。
11月 23日 (土) 帰国。

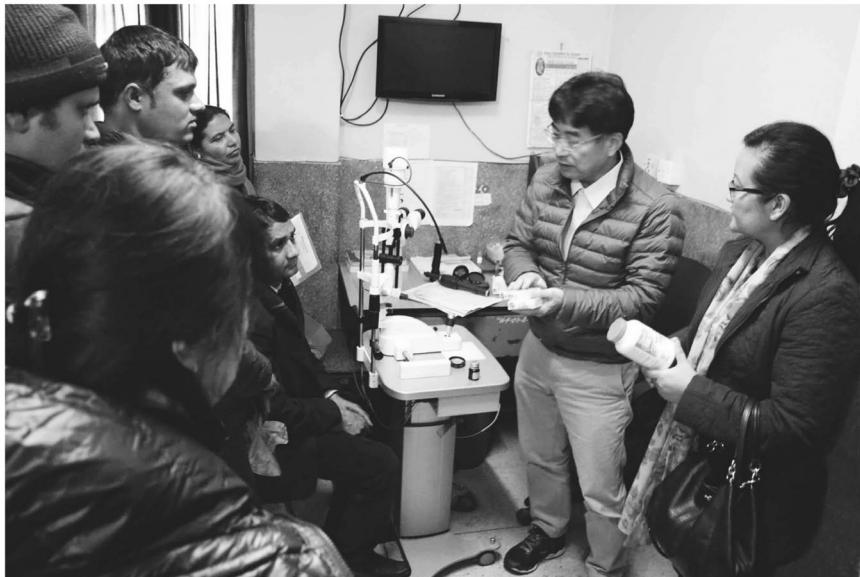
2019年ネパール活動概略

2016年から開始されたJICA草の根技術協力プロジェクト「ネパールにおける網膜疾患診療サービス強化プロジェクト（通称RECONプロジェクト）」は、皆様方のご支援により無事完了した。

2月にはカトマンズでプロジェクト終了式典、さらにネパール網膜硝子体学会年次総会での特別講演を担当した。この特別講演には日本から3名の先生に講演を依頼した。近畿大学の國吉一樹先生、水戸の小沢眼科の塙本宰先生、三重の松阪中央総合病院の久瀬真奈美先生にそれぞれの専門分野である、網膜症変性疾患、小切開硝子体手術、網膜薬物治療に関して講演して頂いた。カトマンズでの講演会の翌日にはボカラで、実際の患者さんを診察しながらの症例検討会を開催した。症例検討会では実際に患者さんを診察し、現地の眼科医と治療内容に関して検討し、患者さんと家族に治療方針を説明した。現地の患者さんにとっては貴重な機会で有り、我々眼科医にとっても良い経験となった。



(ネパール網膜硝子体学会年次総会での記念写真)



(ヒマラヤ眼科病院での症例検討会)

3月にはアジア太平洋眼科学会（APAO）がバンコクで開催され、ネパールへ行く前に出席した。日本眼科学会の推薦で、APAOで表彰されることとなつたためである。日本眼科学会の大鹿理事長から必ず出席するようにとメールを頂き、失明予防に関しての賞を頂いた。APAO出席後、ネパールへ行き、徳島大学の現地プロジェクト事務所を閉鎖した。これで、JICAプロジェクトに関しての現地業務はほぼ終了した。



(APAO での表彰式)

4月下旬から5月上旬にかけてネパールに渡航したが、JICAプロジェクト終了後の持続発展的な活動に向けてであった。トリブバン大学医学部附属病院眼科で新たに網膜硝子体フェローシップを立ち上げ、研修プログラムを開始した。このため今後2カ月に一度程度ネパールに渡航することになった。さらにポカラのヒマラヤ眼科病院で単眼倒像鏡の講習会を行った。ヒマラヤ眼科病院関連の山岳部僻地眼科診療所で眼底検査を普及させるためである。6カ所の診療所に単眼倒像鏡のセットを投入した。この資金は、私の紹介記事が日本経済新聞に連載され、それを読んだ関東の企業会長からの寄附であった。大変有り難いことで、日本経済新聞の影響力は大きいと思った。さらに、7月、11月とネパールへ渡航し、JICAプロジェクト終了後の経過観察と研修プログラムの指導を行っている。



(単眼倒像鏡講習会)

2019年モザンビーク眼科医療支援（アイキャンプ）報告

2019年のモザンビークアイキャンプも2018年と同様にシャイシャイで行った。これはモザンビーク保健省からの依頼による。シャイシャイの病院には私達が指導してきた眼科医が成長し赴任している。彼は手術技術を習得し地域医療に貢献しているので、彼の活躍ぶりを見るのが楽しみであった。

6月11日（火）夕方のバスで閑空へ移動。閑空で姫路のツカザキ病院の長澤先生、野口先生、種子島医療センターの田上先生と合流した。私は先週末にギックリ腰になり閑空に着ければ大丈夫と思っていたので、合流できた時には安堵した。腰痛のため一人で重い荷物を運べるかどうかが問題であったが、運んできた追加の荷物を分配し梱包し直した時には、私の頭の中ではすでにアイキャンプは9割がた終了していた。毎年の事ながら、アイキャンプの準備の過程で色々と問題が生じるからだ。長年積み重ねてきた経験のおかげで問題処理能力はあると自負しているが、今年はモザンビークに来襲した巨大サイクロンには驚いた。サイクロンは現地でお世話になっている宝山さんの住むベイラを甚大な被害を巻き起こしながら通過した。一時、宝山さんの安否が確認できず、アイキャンプどころではないと思った。宝山さんの被害も思ったより少なくアイキャンプのコーディネートを例年通りやって頂けた。

閑空からの深夜便でドバイへ離陸した。我々より一足先に成田から看護師の沼田さんがドバイへ飛び立った。

6月12日（水）早朝のドバイに到着し、無事沼田さんが合流した。そして、ヨハネスブルグで乗り換えモザンビークのマプトに着いたのは現地時刻の夜9時過ぎであった。順調な旅であったが、閑空を出てから約30時間の長旅であった。空港では宝山さんが出迎えて下さった。ただ宝山さんから翌日、サイクロンがやって来るとの警告が出ているとの情報を聞き悪い予感がした。

6月13日（木）朝起きると快晴である。嵐の前の静けさか雲ひとつない快晴である。朝9時半にホテルを出発しシャイシャイへ向かった。マプトを出てしばらくしたところで車がパンクし、タイヤ交換にかなり時間を費やした。シャイシャイに近づくに連れ、だんだん風が強くなり雲の流れも速くなってきて、時おり雨が降ったが問題なかった。シャイシャイの病院ではモイゼス先生が出迎えてくれた。荷物を降ろし無事予定を終了した。

6月14日（金）曇り時々雨。サイクロンは大したことはなかった。朝、アイキャンプ会場の病院へ行ってみると大勢の患者さんたちで埋め尽くされていた。早速準備して、手術患者を選択した。約300人の患者さんを診察し、200人余りの手術患者を選択し、眼内レンズを選定した。両眼の失明患者を最優先するようにモザンビーク人眼科医に説明し手術計画を立てた。その後、手術場の設営、手術顕微鏡の組み立て、手術器具の滅菌依頼をして予定を終了した。



(待っていた大勢の患者さんたち)



(術前検査)

6月15日（土）曇りのち晴れ。手術準備をして朝10時に手術開始したが、人手不足のため私は終始外回りに徹した。途中テレビモザンビークの取材がありインタビューに応じた。アイキャンプ初日に手術をしないのは初めてである。しかし、若手が頑張ってくれ71人の手術を終了したのは午後6時であった。翌日の手術に備えて手術器具の洗浄と滅菌の依頼をして日程を終了した。



(手術室)

6月16日（日）晴れ。前日に手術した患者さんを回診した。手術結果は概ね良好であった。視力を回復して喜び歓声をあげる患者さんや、踊り出す患者さんもいた。回診後早速手術の準備をし、手術を開始した。夕方までに72人の手術を終了した。アイキャンプも回数を重ねているので手馴れたものである。



(モザンビーク人眼科医に手術技術指導を行う長澤先生)

6月17日（月）晴れ。手術患者さんの回診後、手術を開始し夕方までに73人の手術を終了した。この中に2名の先天白内障の小児が含まれている。小児の手術は全身麻酔で行った。今回のアイキャンプでは合計216人（218眼）の手術数であった。2名の小児の手術は両眼同時に行つた。手術後荷物の梱包を行い次年に向けて整理したが、病院では手術物資が不足しているので必要なものを進呈した。これでほとんどの予定を終了し、ポルトガル料理のレストランで打ち上げをした。



(翌年に向けて資材を梱包した)

6月18日（火）晴れ。手術患者さんの回診を行なったが笑顔が溢れた。患者さんたちが感謝の歌を歌ってくれた。回診後、病院長に挨拶し、マプトに向けて出発した。マプトではJICA事務所を訪問し、活動結果を説明した。その後、日本大使館の方々との情報交換を行つた。



(アイキャンプ終了記念撮影)

6月19日（水）早朝に空港に向かい帰国の途に就いた。

6月20日（木）予定通り帰国。

地域貢献

事業の目的と経過

少子・高齢化といった社会情勢に応じて、2018年12月には「出入国管理及び難民認定法及び法務省設置法の一部を改正する法律」が成立し、今後は徳島県にも外国人労働者が急激に増加する可能性がある。その際、互いに地域住民として共生・協労への理解を図る地域社会（コミュニティ）作りが重要な問題となる。

「地域に開かれた大学」として、国際センターでは地域に根ざした異文化理解を進める取り組みを行っている。今年度は以下のような活動を実施した。

地域サポーター制度による活動

本学日本人学生からなる「学生サポーター」（22ページ参照）と共に本学外国人留学生の日本語学習や日本文化体験イベントを支援している。2019年度の活動内容は以下のとおり。

月日	内容	地域サポーター
6月1日	日本語でしゃべらん「書道」	8名
8月9日	国際センター サマースクール 書道・茶道	11名
12月25日	スタディツア（姫路城、JFE 施設）	1名
2月21日	日本語研修コース修了式	4名

地域の学校との連携・支援

徳島地域の初等・中等教育機関との連携事業や国際理解教育・英語教育の支援を行っている。本学外国人留学生と地域の児童生徒が交流を通して多文化を学ぶ機会となり、地域のグローバル化に貢献している。

小学校での交流（11月21日、12月17日）や高校での交流（12月14日）が行われた。



その他

● 国際センター サマースクール「徳島であおう」

目的

本サマースクールは、(1) 海外の大学から参加する学生が、将来本学で交換留学生や正規外国人留学生として学んでもらうこと、(2) 徳島大学での学習・研究、ならびに徳島の文化について理解してもらうこと、また(3) 日本人と他国からの参加学生がお互いに出会い知り合うことで、今後の国際化に向けた自らへの振り返りを促すことを目的として実施した。

実施概要

期間：2019年8月6日（火）～8月13日（火） ※8月12日（月）に修了式を行った。
参加人数：93名（海外からの参加者：39名、日本人学生・本学留学生・高校生・地域住民：54名）

【中国】

・大連理工大学 21名 (引率3名を含む) ・哈爾濱工業大学 2名

【台湾】

・台湾嘉義大学 2名 ・育達科技大学 2名

【ベトナム】

・ハノイ土木大学 4名

【インドネシア】

・ハントゥア一大学 8名

日程：

1日目：8月6日（火）		
15:00-	徳島駅集合&ホテルオリエンテーション	
2日目：8月7日（水）		
9:00-10:00	受付、必要書類記入	共用室 302、303
10:00-11:00	開講式、オリエンテーション	共用室 302、303
11:00-14:00	日本人学生と交流、昼食、キャンパスツアー	常三島キャンパス
14:00-15:00	日本文化講義～徳島と遍路	工業会館 1F 多目的室
15:00-16:45	日本文化体験～邦楽	工業会館 2F モリアルホール
18:00-20:00	合同交流会	阿波観光ホテル
3日目：8月8日（木）		
9:00-11:00	徳島ビジネス学習	大塚製薬（オロナミンC・ポカリスエット工場、能力開発研究所）
11:00-12:00	昼食	大塚製薬内食堂
12:00-17:00	徳島文化体験～藍染め体験など	藍の館・靈山寺・渦の道
4日目：8月9日（金）		
10:00-12:15	徳島文化体験（地域サポートーと） A グループ：茶道→書道 B グループ：書道→茶道	フューチャーセンター 共用室 302、303
12:15-14:00	移動・昼食	
14:00-	研究室訪問	常三島キャンパス 蔵本キャンパス

5日目：8月10日（土）		
	予備日（自由行動）	
6日目：8月11日（日）		
8:15-11:00	ホテルチェックアウト、牟岐へ移動 徳島自然体験（牟岐少年自然の家）	牟岐少年自然の家
11:00-14:00	施設オリエンテーション、昼食、宿泊準備	
14:00-17:30	プログラムのふり返り	
17:30-18:10	夕食	
19:00-20:30	キャンプファイア	
20:30-22:00	入浴・消灯	
7日目：8月12日（月）		
6:30	起床	牟岐少年自然の家
7:10-7:50	朝食	牟岐少年自然の家
7:50-8:45	チェックアウト	
8:45-12:00	クラフト（しおり）作成、モラスコ牟岐見学	
12:00-13:15	昼食	
13:15-15:15	徳島大学へ移動	
15:15-16:00	フィードバックシートなどの記入	共用室302、303
16:00-16:30	修了式	共用室302、303
16:30-20:00	自由行動（阿波踊り見学）	
20:30-22:45	神戸へ移動、ホテルチェックイン	神戸
8日目：8月13日（火）		
10:00-	ホテルチェックアウト・解散	神戸



集合記念写真



合同交流会



サマースクール振り返り



開講式の様子



キャンパスツアー



邦乐体验の様子



企業見学（大塚製薬）





渦の道



靈山寺



藍の館



牟岐少年自然の家



クラフト作成体験



キャンプファイアー

高等教育センター学修支援部門国際教育推進班担当事業

日本語教育

● 日本語研修コース

初級コース（前・後期）

- 文部科学省大学院入学前予備教育（大使館推薦）、教員研修生、学内公募生を対象とし、大学内外での生活を一人で、成人として乗り切れる日本語力を身につける。
- 集中コースで実施する。日本の文化・習慣・社会規範・日本人のコミュニケーションの仕方などを授業に盛り込み、日本人学生や地域住民との活動を含む学内外の場での日本語・日本文化学習を実施する。
- コース全体を10のプログラムに分け、それぞれのプログラムで筆記試験と口頭試験を行い、学習評価を行う。また、毎日の授業の初めに小テストを行い、事前学習を確認する。
- 語彙や活用の動画を事前に視聴・学習し、授業ではコミュニケーションの習得を重視することで、反転授業の形式を取り入れる。

期間と日程、時間割

<2019年度前期>

期間：	2019年4月8日（月）～	2019年8月6日（火）	240時間（授業時間のみ）
日程：	4月8日	オリエンテーション、授業開始	
	4月12日	開講式	
	6月15日	文化体験旅行（姫路城、人と防災未来センター）	
	7月27・8日	ホームステイ	
	8月6日	スピーチ、修了式	

	月	火	水	木	金
8:40～10:10	日本語	日本語	日本語	日本語	日本語
10:25～11:55	日本語	日本語	日本語	日本語	日本語

<2019年度後期>

期間：	2019年10月8日（火）～	2020年2月21日（金）
	285時間（日本語授業時間のみ）	22.5時間（日本文化研究）
日程：	10月8日	オリエンテーション、授業開始
	10月18日	開講式
	11月13日	小学校訪問
	12月14～15日	脇町旅行、高校生と交流
	12月18日	小学校訪問
	12月25日	スタディツア（JFEスチール、岡山城）
	2月12～13日	京都旅行
	2月21日	スピーチ・修了式
	毎週木曜日	グローバルランチ（日本人学生との交流）

	月	火	水	木	金
8:40～10:10	日本語	日本語	日本語	日本語	日本語
10:25～11:55	日本語	日本語	日本語	日本語	日本語
12:50～13:20	日本語		日本語		日本文化研究 (英語)

受講生、最終スピーチのタイトル

<2019年度前期>

	国籍	性別	最終スピーチ
徳島大学先端技術科学教育部 博士課程	モンゴル	女	にほんでもんきょうすること
徳島大学先端技術科学教育部 博士課程	モンゴル	男	私が日本で学ぶ理由
徳島大学先端技術科学教育部 博士課程	モンゴル	男	これからもがんばります
医科学教育部 博士課程	タイ	男	わたしのけんきゅう
医科学教育部 博士課程	ベトナム	男	えいようとびようき
高等教育研究センター フロリダアトランティック大学	アメリカ	男	日本で一番好きな食べ物

<2019年度後期>

	国籍	性別	最終スピーチ
高教研センター研究生 教員研修生	ホンジュラス	女	ホンジュラス 情熱を持って愛する美しい国
高教研センター研究生 教員研修生	フィリピン	男	むらのせんせいは日本へきました
高教研センター研究生 教員研修生	フィリピン	男	七転び八起き
高教研センター研究生 教員研修生	ウガンダ	男	日本のゆうじん
高教研センター研究生 教員研修生	ウガンダ	女	ゆめがほんとうになりました
高教研センター研究生 教員研修生	ジンバブエ	男	私の日本のたび、、、
医歯薬研究部 研究者	エジプト	女	日本ですみやすくなりました
徳島大学先端技術科学 教育部 博士課程	モンゴル	女	日本語の先生、ありがとうございました
徳島大学先端技術科学 教育部 博士課程	インドネシア	女	日本で楽しみ勉強します
徳島大学先端技術科学 研究生	中国	男	過去、現在、未来

主な使用教材

- ・ 「みんなの日本語 初級 I」本冊・翻訳文法解説書・標準問題集 第2版 スリーエーネットワーク
- ・ 「みんなの日本語 初級 II」本冊・翻訳文法解説書・標準問題集 第2版 スリーエーネットワーク
- ・ 「留学生のための漢字の教科書 初級 300」 国書刊行会
- ・ 「使える日本語」徳島大学国際センター
- ・ 語彙動画 徳島大学国際センター

日本文化研究（後期）

実施概要

「日本文化研究」は、国際センターが平成30年度後期より開始した日本語研修コース受講生を対象としたリサーチ・ベースの授業で、留学生が各自の興味・関心に基づき設定したテーマ（特に、日本文化や社会に関するテーマ）について小規模な調査・研究を行い、それを英語でレポートとしてまとめることを目的としている。昨年度同様、3つのフェーズで構成されており、① 研究手法（特に質的研究）に関する方法論、具体的な調査方法などについて学ぶ Phase 1、② 自らのリサーチテーマを設定し、調査・研究の準備を行う Phase 2、それに、③ 実際に調査・研究を行い、各自で最終レポートをまとめ上げる Phase 3、の順番で授業を実施した。各学生が作成した Final Essay は、PDF 冊子として国際センターホームページ上に公開するよう予定している。

開講期間：2019年10月11日（金）～2019年2月21日（金）12:50-14:20

授業実施日および内容（週1回、15週間） 地域創生国際交流会館 G301

回	日付	時間	内容
1	10月11日	12:50～14:20	Orientation
2	10月25日	12:50～14:20	On Qualitative Research (1)
3	11月1日	12:50～14:20	On Qualitative Research (2)
4	11月8日	12:50～14:20	On Qualitative Research (3)
5	11月15日	12:50～14:20	On Qualitative Research (4)
6	11月22日	12:50～14:20	On Qualitative Research (5)
7	11月29日	12:50～14:20	Research Preparation (1)
8	12月6日	12:50～14:20	Research Preparation (2)
9	12月13日	12:50～14:20	Research Preparation (3)
10	12月20日	12:50～14:20	Research Preparation (4)
11	1月10日	12:50～14:20	Research Preparation (5)
12	1月24日	12:50～14:20	Essay Writing (1)
13	1月31日	12:50～14:20	Essay Writing (2)
14	2月7日	12:50～14:20	Essay Writing (3)
15	2月14日	12:50～14:20	Essay Writing (4)
	2月21日	12:50～14:20	Essay Submission

受講生6名：

- フィリピン 2名 - ウガンダ 2名 - ジンバブエ 1名 - ホンジュラス 1名

評価および所感：

昨年同様、参加学生の多くが学部段階で量的な研究を行っていると推測されたこと、また、時間的に考えてアンケートなどを用いた量的な研究は難しいと推測されたこと、などの理由から、質的な研究を中心としたリサーチを中心に指導を行った。6名の参加者全員が、鳴門教育大学で教員研修プログラムに参加するために来日していることから、非常に優秀であり、なおかつお互いに励まし合い、意見交換をしながら研究を進めていった。

最終的には、全員が Final Essay を提出し、すべての活動を終えることができた。

学生のリサーチテーマは以下のとおり。

- ・ Japanese media usage patterns among foreigners
「外国人の間の日本のメディア利用パターン」
- ・ Japanese Driving Behavior: A Social Influence or Legal Implication
「日本人の運転行為：社会的な影響、それとも法的な意味合い」
- ・ How well can Japanese English Language Learners write loanwords in English?
「日本人英語学習者は英語からの借用語をどの程度英語で書けるのか？」
- ・ Japanese Student's Insight on Honduran Red Bean Taste
「ホンジュラス小豆料理の味に対する日本人学生の洞察」
- ・ Japanese Hospitality Culture and its Origin.
「日本のホスピタリティ文化とその根源」
- ・ Case Study of Educational Practices to Enhance Students Entrepreneurial Spirit in Tokushima University
「徳島大学における学生の起業家精神を促進する教育的試みに関するケーススタディー」

日本語研修（上級）コース

概要

- 渡日前入学許可制度で学部に入学する学生を対象にする。
- 入学年度の半年間、日本語レベルの向上を目的に集中コースを行う。日本人学生と一緒に授業を履修し単位取得ができるように、十分な日本語能力を身につける。
- 日本留学試験を受け、本学の入学試験に合格している学生を対象にするため、大学の講義を聞いたり、教科書を読んで理解したりできる能力を養う。また、講義を聞くことに慣れさせるため、数学や自らの専門の学部の授業を聴講させる。
- 翌年の4月から日本人学生と同じように新入生として授業を履修できるよう、日本での生活に慣れさせる。そのために、生活指導や文化体験などを行う。
- 語学マイレージ・プログラムの実施により、留学生も英語のマイレージ・ポイントを取得する必要があり、そのために日本語だけでなく英語能力も向上させる。

期間 2019年10月16日（水）～2020年2月21日（金）

授業スケジュールと主な使用教材

	月	火	水	木	金
8:40 – 10:10			基礎物理学（聴講）		
10:25 – 11:55	英語	科学技術日本語	日本事情II（聴講）	日本事情IV（聴講）	日本語 漢字・語彙
12:50 – 14:20	統計（聴講）	日本語聴解		グローバルランチ	日本語読解
14:35 – 16:05	数学（個別指導）		英語	アカデミック日本語	英語
16:20 – 17:50		数学（個別指導）			

小学校・高校訪問、京都旅行、スタディツア（岡山）、脇町旅行、グローバルランチ

主な内容や使用教科書

日本語聴解：「留学生のためのアカデミックジャパンーズ 動画で学ぶ大学の講義」

アカデミック日本語：「大学で学ぶための日本語ライティング」

「大学で学ぶための日本語ライティング」

日本語読解：「大学・大学院留学生の日本語③論文読解編」

「読むトレーニング応用編」

日本語語彙・漢字：「考える漢字語彙・上級編」

科学技術日本語：「科学技術基礎日本語」「科学技術日本語案内」

英語：「Open Mind Level 3」

受講生と最終スピーチ・タイトル

	国	性別	2020年4月入学	最終課題
日本語等予備教育生	韓国	男	生物資源産業学部	韓国の春
日本語等予備教育生	韓国	男	生物資源産業学部	GMOと副作用

● 総合日本語

- 未習から中級までの日本語学習を希望する学生、研究者とその成人家族を対象とする。
- 常三島・藏本キャンパスで実施する。
- 希望者には参加証書を発行する。

実施概要

- 開講クラスと使用教材

クラス名	レベル	JLPT 換算	CEFR 換算	教科書：「みんなの日本語」 (スリーエーネットワーク)
初級 1	未習者-初級	-	A1	初級 I L1～L13
初級 2	初級	N5	A1	初級 I L14～L25
初級 3	初中級	N5	A2	初級 II L26～L38
初級 4	初中級	N4	A2	初級 II L39～L50
中級 1	中級	N4	B1	中級 I L1～L6
中級 2	中級	N3	B1	中級 I L7～L12
中級 3	中上級	N3-2	B2	中級 II L1～L6
中級 4	中上級	N2	B2	中級 II L7～L12

使用教室

常三島キャンパス：総合科学部1号館3階 国際センター教室

地域創生・国際交流会館3階 G302、303

藏本キャンパス： 藏本会館2階 多目的室3、5

使用教科書

みんなの日本語 初級I、初級II、中級I、中級II 第2版

本冊、翻訳・文法解説 スリーエーネットワーク

受講者数

開講 クラス	人数（申し込み時の人数）			
	前期 2019年5月7日～ 2019年7月22日		後期 2019年10月22日～ 2020年1月25日	
	常三島	藏本	常三島	藏本
初級 1	5 (8)	9 (12)	4 (5)	13 (13)
初級 2		6 (6)	3 (3)	5 (5)
初級 3	5 (5)		2 (2)	5 (6)
初級 4			3 (3)	
中級 1	7 (7)			

中級 2	2 (2)			
中級 3	3 (3)		5 (5)	
中級 4				
小計	22 (25)	15 (18)	17 (18)	23 (24)
合計	37 (43)		40 (42)	

開講状況

前期	月	火	水	木	金
08:40～					
10:25～	蔵本初級 2		常三中級 1		蔵本初級 2 常三中級 1
12:50～	蔵本初級 1 常三初級 2		常三初級 1	常三初級 2	蔵本初級 1 常三初級 1
14:35～		常三初級 3	常三中級 2	常三初級 3	常三中級 2
16:20～	常三中級 3				常三中級 3

後期	月	火	水	木	金
08:40～		蔵本初級 1 蔵本初級 2			蔵本初級 1 蔵本初級 2
10:25～	常三初級 1	蔵本初級 3	常三初級 1		蔵本初級 3
12:50～	常三初級 2			常三初級 2	
14:35～		常三初級 3	常三初級 4		常三初級 3 常三初級 4
16:20～	常三中級 3				常三中級 3

アンケート結果

前期 (回答 25)

評価	5 とても満足した	4	3 普通	2	1 全く満足しない
人数	21	3	0	0	0
%	84%	16%	0%	0%	0%

コメント

- 先生はとてもやさしいです。
- 明確に説明してくれて、わかりやすかった。
- モンゴル語の解説書が欲しい。

- やさしくないですが、たいへんおもしろい。
- とても満足した。
- とても大切な漢字の勉強がなかったのが残念だ。
- 日本の文化がわかりました。
- もっと数多くして欲しい。週に3回。
- 中級のクラスを蔵本キャンパスで開講して欲しい。常三島は遠すぎる。

後期 (回答 30)

評価	5 とても満足した	4	3 普通	2	1 全く満足しない
人数	26	3	1	0	0
%	87%	10%	3%	0%	0%

コメント

- 先生はフレンドリーで忍耐強い。
- 教科書も先生の説明も分かりやすかった。
- 日本語がとても上達した。自分の国での勉強とかなり違う。
- 先生たちは一生懸命がんばって教えてくれた。
- 授業の内容と先生の教え方は適切だった。
- リスニングの練習でビデオを見たりするといいかもしれない。
- 楽しかったし、日本で生活するための基礎的な日本語が学べた。
- ちょっと難しい。でも、いろいろ勉強した。
- 漢字を勉強したい。

● 留学生のための英語

概要

「留学生のための英語」は、国際センターが 2017 年度より開始した留学生対象の英語補習授業で、留学生が本学の卒業要件に必要な英語力を獲得することを支援するためのコースである。「これまで英語を勉強したことがあるが、あまり得意でない」と考えている留学生、「基礎的な英語は大丈夫だけど、もう少し英語力を UP したい」と考えている留学生を対象としており、TOEIC などの語学試験にも対応することを目的としている。

「留学生のための英語」は、受講者の英語レベルに応じて、A コース（初級レベル）、B コース（中級レベル）の 2 つに分けて展開しており、A コースは TOEIC550 点未満の留学生（CEFR A1, A2）を、B コースは TOEIC550 点以上の留学生を対象としている。

いずれのコースも、Reading, Listening, Writing & Speaking の英語力向上を目指した支援を提供する。

2019 年度前期

A コース: TOEIC550 点未満 (CEFR A1, A2)

- ・ 受講生 3 名
 - 総合科学教育部 1 名
 - 保健科学教育部 1 名
 - 薬学教育部 1 名
- ・ 内容

今回は、昨年度と趣向を変え、Oxford 出版が出している Select Readings Elementary を用いて授業を行った。最初の授業で面談を行い、レベル的に適切であることを確認し、授業を開始した。各授業の概要は以下のとおり。
- ・ 授業実施日および内容（週 2 回、約 10 週間） 地域創生・国際交流会館共用室 302
 - 1. 5月8日（水） 12:50～14:20 Chapter 1: The Most Popular Sports in the World (1)
 - 2. 5月13日（月） 12:50～14:20 Chapter 1: The Most Popular Sports in the World (2)
 - 3. 5月15日（水） 12:50～14:20 Chapter 1: The Most Popular Sports in the World (3)
 - 4. 5月20日（月） 12:50～14:20 Chapter 2: Are You a Healthy Eater? (1)
 - 5. 5月22日（水） 12:50～14:20 Chapter 2: Are You a Healthy Eater? (2)
 - 6. 5月27日（月） 12:50～14:20 Chapter 2: Are You a Healthy Eater? (3)
 - 7. 5月29日（水） 12:50～14:20 Chapter 3: Dream Homes (1)
 - 8. 6月3日（月） 12:50～14:20 Chapter 3: Dream Homes (2)
 - 9. 6月5日（水） 12:50～14:20 Chapter 3: Dream Homes (3)
 - 10. 6月10日（月） 12:50～14:20 Chapter 4: Kiss, Bow or Shake Hands? (1)
 - 11. 6月12日（水） 12:50～14:20 Chapter 4: Kiss, Bow or Shake Hands? (2)
 - 12. 6月17日（月） 12:50～14:20 Chapter 4: Kiss, Bow or Shake Hands? (3)
 - 13. 6月19日（水） 12:50～14:20 Chapter 5: A City Without Oil (1)
 - 14. 6月24日（月） 12:50～14:20 Chapter 5: A City Without Oil (2)
 - 15. 6月26日（水） 12:50～14:20 Chapter 5: A City Without Oil (3)
 - 16. 7月1日（月） 12:50～14:20 Chapter 6: You Can't Please Everyone (1)
 - 17. 7月3日（水） 12:50～14:20 Chapter 7: Across the Desert (1)
 - 18. 7月8日（月） 12:50～14:20 Chapter 7: Across the Desert (2)
 - 19. 7月10日（水） 12:50～14:20 Chapter 7: Across the Desert (3)
- ・ 評価および所感

今回は受講人数が限られていたこともあり、教科書に関する文化的な話題を多く含みながら授業を展開した。受講した学生 3 名が、いずれも中国からの留学生であったことから、たとえば Chapter 1 において中国で人気のあるスポーツについてディスカッションしたり、Chapter 2 では中国のフードデリバリーサービスと日本のデリバリーサービスの違いについて意見交換をしたりした。実際の授業においては、受講者の英語力が限られていたこともあり、日本語と英語を織り交ぜながら授業を行った。授業内容に関する理解度も高く、お互いに非常に満足できた授業だった。

B コース: TOEIC550 点以上

- ・ 受講生 2名
 - 先端技術科学教育部 1名
 - 総合科学教育部 1名
- ・ 内容

昨年度は試行的に市販のテキストを利用せず、日本文化に関する自作のPPTを用いて授業を行ってみたが、今回は Perceptia Press が出版している *I and Me* というテキストを用いて授業を行った。テキスト中の各 Chapter には性格判断や認知傾向などを見るための質問紙が収録されており、学習者が興味を持って内容を学習できるように設計されている。今回は、英語を使って内容をより深く学んでもらうために、この教材を用いることとした。各回の概要は以下のとおり。
- ・ 授業実施日および内容（週2回、約10週間） 地域創生・国際交流会館共用室 303
 - 1. 5月8日（水） 14:35～16:05 Test 1: Do You Know Yourself? (1)
 - 2. 5月13日（月） 14:35～16:05 Test 1: Do You Know Yourself? (2)
 - 3. 5月15日（水） 14:35～16:05 Test 1: Do You Know Yourself? (3)
 - 4. 5月20日（月） 14:35～16:05 Test 1: Do You Know Yourself? (4)
 - 5. 5月22日（水） 14:35～16:05 Test 2: Are You a Can-do Person (1)
 - 6. 5月27日（月） 14:35～16:05 Test 2: Are You a Can-do Person (2)
 - 7. 5月29日（水） 14:35～16:05 Test 2: Are You a Can-do Person (3)
 - 8. 6月3日（月） 14:35～16:05 Test 2: Are You a Can-do Person (4)
 - 9. 6月5日（水） 14:35～16:05 Test 2: Are You a Can-do Person (5)
 - 10. 6月10日（月） 14:35～16:05 Test 3: Are You Independent? (1)
 - 11. 6月12日（水） 14:35～16:05 Test 3: Are You Independent? (2)
 - 12. 6月17日（月） 14:35～16:05 Test 3: Are You Independent? (3)
 - 13. 6月19日（水） 14:35～15:30 Test 3: Are You Independent? (4)
 - 14. 6月24日（月） 14:35～16:05 Test 3: Are You Independent? (5)
 - 15. 6月26日（水） 14:35～16:05 Test 4: Are You Always Correct? (1)
 - 16. 7月1日（月） 14:35～16:05 Test 4: Are You Always Correct? (2)
 - 17. 7月3日（水） 14:35～16:05 Test 4: Are You Always Correct? (3)
 - 18. 7月8日（月） 14:35～16:05 Test 4: Are You Always Correct? (4)
 - 19. 7月10日（水） 14:35～16:05 Test 4: Are You Always Correct? (5)
- ・ 評価および所感

本授業では、試行的に性格判断などの質問紙を取り扱っている教科書を用いてみたが、心理学の背景知識がない学生にとってはやや難しかった感があり、たとえばマズローの欲求5段階説などを理解するのに手間取っていたように思える。その他に関してみると、授業中に各チャプターのテーマに応じて日常的な観点から比較的長い時間を取り意見交換をしたこともあり、受講者としては比較的自由な雰囲気で授業を受けることができたと考える。

最後の授業で受講者から本授業についての聞き取りを行ったところ、「色々なテーマについて自由に話ができたのは良かった」「英語で日本のことについて知れたのは良かった」といったフィードバックを得た。

Aコース: TOEIC550点未満(CEFR A1, A2)

・受講生 5名

- 総合科学部	1名	- 理工学部	1名
- 保健科学教育部	1名	- 保健学科研究生	1名
- 先端技術教育部研究生	1名		

・内容

後期のAコースでは、下記のテキストを用いながら授業を展開した。基本的にはテキストに沿って授業を行ったが、内容に応じて、時事的なトピックを織り交ぜ、英語、日本語を織り交ぜながらディスカッションを行った。

(教科書) マクミラン出版 Open Mind 2

・授業実施日および内容(週2回、約10週間) 地域創生・国際交流会館共用室301

1. 10月24日(木)	14:35~16:05	A New Millenium (1)
2. 10月29日(火)	14:35~16:05	A New Millenium (2)
3. 10月31日(木)	14:35~16:05	A New Millenium (3)
4. 11月5日(火)	14:35~16:05	A New Millenium (4)
5. 11月12日(火)	14:35~16:05	Culture Vulture (1)
6. 11月14日(木)	14:35~16:05	Culture Vulture (2)
7. 11月19日(火)	14:35~16:05	Culture Vulture (3)
8. 11月21日(木)	14:35~16:05	Culture Vulture (4)
9. 11月26日(火)	14:35~16:05	Tickets, Money and Passion (1)
10. 11月28日(木)	14:35~16:05	Tickets, Money and Passion (2)
11. 12月3日(火)	14:35~16:05	Tickets, Money and Passion (3)
12. 12月5日(木)	14:35~16:05	Tickets, Money and Passion (4)
13. 12月10日(火)	14:35~16:05	It Could Happen to Anyone (1)
14. 12月12日(木)	14:35~16:05	It Could Happen to Anyone (2)
15. 12月17日(火)	14:35~16:05	It Could Happen to Anyone (3)
16. 12月19日(木)	14:35~16:05	It Could Happen to Anyone (4)
17. 12月24日(火)	14:35~16:05	Musican Notes (1)
18. 1月9日(木)	14:35~16:05	Musican Notes (2)
19. 1月14日(火)	14:35~16:05	Musican Notes (3)
20. 1月16日(木)	14:35~16:05	Musican Notes (4) 期末インタビュー

・評価および所感

本授業では、基本的な内容を読んで、聞いて、理解し、話すことができるよう、比較的簡単なテキストを用いながら授業を行った。最終的な評価は、各学生に対するグループおよび個人レベルでのインタビューでの評価を基に行った。

各受講者からは、「最初はどうなるか不安だったが、少しできるようになったので良かった」などの意見を聞くことができた。

B コース: TOEIC550 点以上

- ・ **受講生 8名**

- 理工学部研究者	1名	- 医科学教育部	1名
- 総合科学部	1名	- 先端技術科学教育部	2名
- 総合科学教育部	1名	- 理工学部	1名
- 医科学教育部研究生	1名		
- ・ **内容**

後期の B コースでは、下記のテキストを用いながら授業を展開した。基本的にはテキストに沿って授業を行ったが、内容に応じて、時事的なトピックを織り交ぜ、英語によるディスカッションを行った。

(教科書) マクミラン出版 Open Mind 3
- ・ **授業実施日および内容 (週 2回、約 10 週間)** 地域創生・国際交流会館共用室 301
 - 1. 10月 24 日 (木) 16:20~17:50 Live and Learn (1)
 - 2. 10月 29 日 (火) 16:20~17:50 Live and Learn (2)
 - 3. 10月 31 日 (木) 16:20~17:50 Live and Learn (3)
 - 4. 11月 5 日 (火) 16:20~17:50 Live and Learn (4)
 - 5. 11月 12 日 (火) 16:20~17:50 Live and Learn (5)
 - 6. 11月 14 日 (木) 16:20~17:50 Then and Now (1)
 - 7. 11月 19 日 (火) 16:20~17:50 Then and Now (2)
 - 8. 11月 21 日 (木) 16:20~17:50 Then and Now (3)
 - 9. 11月 26 日 (火) 16:20~17:50 Then and Now (4)
 - 10. 11月 28 日 (木) 16:20~17:50 Then and Now (5)
 - 11. 12月 3 日 (火) 16:20~17:50 Buying the Power (1)
 - 12. 12月 5 日 (木) 16:20~17:50 Buying the Power (2)
 - 13. 12月 10 日 (火) 17:00~17:50 Buying the Power (3)
 - 14. 12月 12 日 (木) 16:20~17:50 Buying the Power (4)
 - 15. 12月 17 日 (火) 16:20~17:50 Buying the Power (5)
 - 16. 12月 19 日 (木) 16:20~17:50 Taking Care of Business (1)
 - 17. 12月 24 日 (火) 16:20~17:50 Taking Care of Business (2)
 - 18. 1月 9 日 (木) 16:20~17:50 Taking Care of Business (3)
 - 19. 1月 14 日 (火) 16:20~17:50 Taking Care of Business (4)
 - 20. 1月 16 日 (木) 16:20~17:50 Taking Care of Business (5) 期末インタビュー

評価および所感

今回選定したテキストが、受講者のレベルに丁度よかつたこともあり、非常に良い感じの授業を展開することができた。学生の多くが中国人であったため、時折中国語が飛び交うことがあったが、授業中は基本的に英語でやり取りをすることができた。TOEIC550 以上の実力がある学生が集まっていたものの、学生間の実力差は大きく、なかなか活動を調整するのが難しかった。ただ、集まつた学生の誰もが意欲的であったことから、十分に効果的な授業を展開できた。

最終的な評価はグループならびに各学生に対する個人レベルでのインタビューでの評価を基に行った。インタビューの結果としては、「いろいろな話を英語でできて面白かった」、「話す機会や書く機会があったので良かった」などの意見があった。

海外留学関連

(1) 短期海外留学プログラム（夏期・春期）

短期海外留学プログラム（夏期）

説明会<常三島キャンパス> 地域創生・国際交流会館 1階多言語交流コモンラウンジ

日付	時間	参加者数
4月 15日	12:00～12:40	15人
	18:00～19:30	82人
4月 18日	18:00～19:00	47人

<蔵本キャンパス> 蔵本会館 2階 Global Space Kuramoto

日付	時間	参加者数
4月 17日	12:00～13:00	1人

短期海外留学プログラム<夏期> 参加者合計数：88人

参加者の出発前には各プログラムの参加者を対象に国際センターで3～4回程度の事前指導を実施し、留学先への参加申請、奨学金申請、航空券の手配など手続きに関する支援のほか、現地の生活情報、危機管理情報などを提供した。

派遣先	モナシュ大学（オーストラリア）
派遣期間	4週間（2019年8月20日～9月22日）
参加人数	9人
概要	Monash University English Language Centre (MUEL) で、約80時間の英語コースを受講
滞在形態	ホームステイ

派遣先	南イリノイ大学（アメリカ）
派遣期間	4週間（2019年8月22日～9月22日）
参加人数	3人
概要	Center for English as a Second Language (CESL) で、80～100時間の英語コースを受講
滞在形態	大学寮

派遣先	慶北大学（韓国）
派遣期間	2週間（2019年8月11日～8月24日）
参加人数	2人
概要	韓国文化体験、韓国語クラス、ソウル文化研修等
滞在形態	大学寮

派遣先	マレーシアマラッカ技術大学（マレーシア）
派遣期間	10日間（2019年8月24日～9月2日）
参加人数	72人
概要	英語クラス、文化研修等
滞在形態	大学寮

派遣先	クイーンズ大学（カナダ）
派遣期間	3週間（2019年8月8日～9月1日）
参加人数	2人
概要	Queen's School of English で、Canadian Academic English Experience に参加
滞在形態	ホームステイ

短期海外留学プログラム（春期）

説明会＜常三島キャンパス＞ 地域創生・国際交流会館 1階多言語交流コモンラウンジ

日付	時間	参加者数
10月7日	12:00～12:40	24人
	18:00～19:30	16人
10月8日	12:00～12:30	13人
	18:00～19:00	9人

＜蔵本キャンパス＞ 蔵本会館2階 Global Space Kuramoto

日付	時間	参加者数
10月9日	12:00～13:00	2人

短期海外留学プログラム＜春期＞ 参加者合計数：22人（当初予定28人）

派遣先	オーケランド大学（ニュージーランド）
派遣期間	4週間（2020年2月15日～3月14日）
参加人数	14人
概要	English Language Academy (ELA) で、約80時間の英語コースを受講
滞在形態	ホームステイ

派遣先	クイーンズ大学（カナダ）
派遣期間	4週間（2020年2月15日～3月15日）
参加人数	5人
概要	Queen's School of English で、Canadian English Experience に参加
滞在形態	ホームステイ

派遣先	南イリノイ大学（アメリカ）
派遣期間	4週間（2020年2月8日～3月9日）
参加人数	2人
概要	Center for English as a Second Language (CESL) で、80～100時間の英語コースを受講
滞在形態	大学寮

派遣先	Global English Centre（マレーシア）
派遣期間	2020年2月9日～2月23日 1人
参加人数	2020年3月8日～3月22日 1人 ただし、新型肺炎の流行の影響でキャンセル
概要	英語研修、インターンシップ
滞在形態	寮、ホテル

派遣先	国立土木大学（ベトナム）
派遣期間	10日間（2020年2月19日～2月27日）
参加人数	5人
概要	文化研修、ベトナム語
滞在形態	ホテル

新型肺炎の流行の影響でプログラムをキャンセル

(2) 慶北大学校（韓国）交換留学

交換留学については、原則として各学部が募集・選考・派遣手続きを担っているが、慶北大学の交換留学は全学学生を対象としていることから、高等教育研究センター・国際課が各手続きを担当している。説明会を行い、2019年7月24日に4人が参加、2019年11月19日に1人が参加した。2020年3月から1人が留学予定である（新型肺炎により、留学延期。2020年3月6日現在）。

(3) 個別留学相談

高等教育研究センターと国際課の教職員が協力し、学生の留学相談に対応している。相談内容としては、留学計画に関する相談が最も多く、留学形態、留学期間、休学の必要性などに関する内容が目立った。また、短期留学に関する相談、奨学金に関する相談もあり、目的に合ったプログラム・行き先の選び方や留学費用に関する質問を多く受けた。外国語学習に関して英語の勉強の仕方について相談を受けた際には、留学生との交流イベントである Global Lunch や学生サポート制度等を紹介した。

相談件数：55件（面談による相談のみ）

相談内容：留学計画、交換留学、短期留学、長期私費留学、奨学金、外国語学習、ビザ等渡航手続き

安全対策、ワーキングホリデー、トビタテ！留学 JAPAN

(4) 官民協働海外留学支援制度～トビタテ！留学 JAPAN～

トビタテ！留学 JAPAN 日本代表プログラム

トビタテ！留学 JAPAN 日本代表プログラムの第11期地域人材に1名、第12期全国版に1名が採択された。高等教育研究センターは、国際課及び本学トビタテ生と協力して各期の募集説明会を開いたほか、申請希望学生に対して留学計画相談等に対応している。

トビタテ！留学 JAPAN 第11期地域人材説明会

常三島キャンパス 地域創生・国際交流会館1階 多言語交流コモンラウンジ	4月24日 17:00～17:30 参加者数：3名
---	------------------------------

トビタテ！留学 JAPAN 第12期全国版説明会

常三島キャンパス 地域創生・国際交流会館1階 多言語交流コモンラウンジ	7月2日 18:00～19:30 参加者数：20名 「留学×キャリア」イベント内で開催
---	---

トビタテ！留学 JAPAN 第13期全国版説明会

常三島キャンパス 地域創生・国際交流会館1階 多言語交流コモンラウンジ	12月16日 12:00～12:40 参加者数：15名
---	--------------------------------

「留学×キャリア」イベント

高等教育研究センター、国際課、本学のトビタテ留学経験者、そしてトビタテ！留学 JAPAN の支援企業が協力して開催した、海外留学とキャリア形成について考えを深めるイベントである。大学生活に

における学生の成長機会の選択肢として、海外留学やインターンシップを早期に動機づけ、将来の進路選択に気づきを与えることを狙いとしている。

日時	2019年7月2日 18:00～19:30
場所	常三島キャンパス 地域創生・国際交流会館1階
参加者数	20人
支援企業	リクルートキャリア
当日の流れ	(1) キャリア教育セミナー 大学生を取り巻く環境変化、企業の採用・就職の変化、留学とキャリアについて講演 (2) 大学の留学プログラム・トビタテ！留学 JAPAN 説明 (3) ワークショップ（支援企業担当者） 自己分析：自分の強みや弱みを考える 大学4年間を効果的に過ごすためのスケジュール立て

(5) その他の留学支援

海外留学安全対策セミナー

海外留学をする学生が増える夏季休業と春季休業前に合わせて、学外から講師を招き、留学を予定している全学のすべての学生を対象に海外留学安全対策セミナーを行っている。海外でトラブルに巻き込まれないための予防策、万一巻き込まれてしまった場合の対処法などについて、海外でトラブル事例をもとに話しいただいた。本セミナーは、海外留学を予定している本学学生には原則として参加を必須としている。

夏期海外留学危機管理セミナー

常三島キャンパス 教養教育5号館201教室	2019年7月4日 12:00～12:40
--------------------------	-----------------------

春期海外留学危機管理セミナー

常三島キャンパス 教養教育4号館201教室	2020年1月21日 12:00～12:40
--------------------------	------------------------

Global Space Josanjima / Kuramoto

常三島・蔵本両キャンパスに「Global Space」を設置している。学生が海外協定校や海外留学情報を自由に閲覧できるようになっているほか、海外留学相談スペースとして活用されている。



Global Space Josanjima



Global Space Kuramoto

徳島大学外国人留学生在籍状況

【国別】2020年2月1日時点（単位：人）

区分／国又は地域名		学部学生			大学院生			研究生等			合　　計		
		計	女子	国費	計	女子	国費	計	女子	国費	計	女子	国費
アジア	インドネシア	1	1	0	11	6	6				12	7	6
	インド				5	3	1				5	3	1
	台湾				3	1	0	6	4	0	9	5	0
	韓国	4	2	0	1	1	1	2	0	0	7	3	1
	中国	5	1	0	108	44	0	26	15	0	139	60	0
	バングラデシュ				7	2	3	2	1	1	9	3	4
	パキスタン				1	1	1				1	1	1
	ネパール				1	0	1				1	0	1
	フィリピン				1	0	0	2	0	2	3	0	2
	ベトナム	9	2	0	6	4	1				15	6	1
	マレーシア				4	2	0	2	2	0	6	4	0
	モンゴル				15	12	2				15	12	2
	タイ王国				5	2	3				5	2	3
北米	カナダ							1	0	0	1	0	0
中米	ホンジュラス							1	1	1	1	1	1
欧州	スウェーデン							4	2	0	4	2	0
	フランス							3	0	0	3	0	0
	クロアチア							2	2	0	2	2	0
	カザフスタン				1	0	1				1	0	1
中東	サウジアラビア				1	0	0				1	0	0
	シリア				1	0	0				1	0	0
アフリカ	エジプト				4	1	0				4	1	0
	ナイジェリア				1	0	0	0	0	0	1	0	0
	ルワンダ				1	0	0				1	0	0
	ウガンダ							2	1	2	2	1	2
	ジンバブエ							1	0	1	1	0	1
合計 26ヶ国・地域		19	6	0	177	79	20	54	28	7	250	113	27

【所属別】(2020年2月1日現在単位：人)

所属/区分	学部学生			大学院生			研究生等			合 計		
	計	女性	国費	計	女性	国費	計	女性	国費	計	女性	国費
総合科学部	5	1	0				24	17	0	29	18	0
医学部	1	1	0				1	1	0	2	2	0
歯学部							1	0	0	1	0	0
薬学部										0	0	0
工学部										0	0	0
理工学部	8	3	0				9	1	0	17	4	0
生物資源産業学部	5	1	0				1	1	0	6	2	0
総合科学教育部				21	10	1	4	4	0	25	14	1
医科学教育部				20	14	3				20	14	3
栄養生命科学教育部				5	3	2				5	3	2
保健科学教育部				3	3	2				3	3	2
口腔科学教育部				21	12	5	1	0	0	22	12	5
薬科学教育部				10	3	3	1	1	1	11	4	4
先端技術科学教育部				97	34	4	4	1	0	101	35	4
国際センター							8	2	6	8	2	6
合計	19	6	0	177	79	20	54	28	7	250	113	27

【徳島大学における過去5年間の留学生受入数】各年度5月1日現在（単位：人）

区分／年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
国 費	18	14	12	16	18
政府派遣	16	8	5	1	0
私 費	174	189	218	247	220
計	208	211	235	264	238

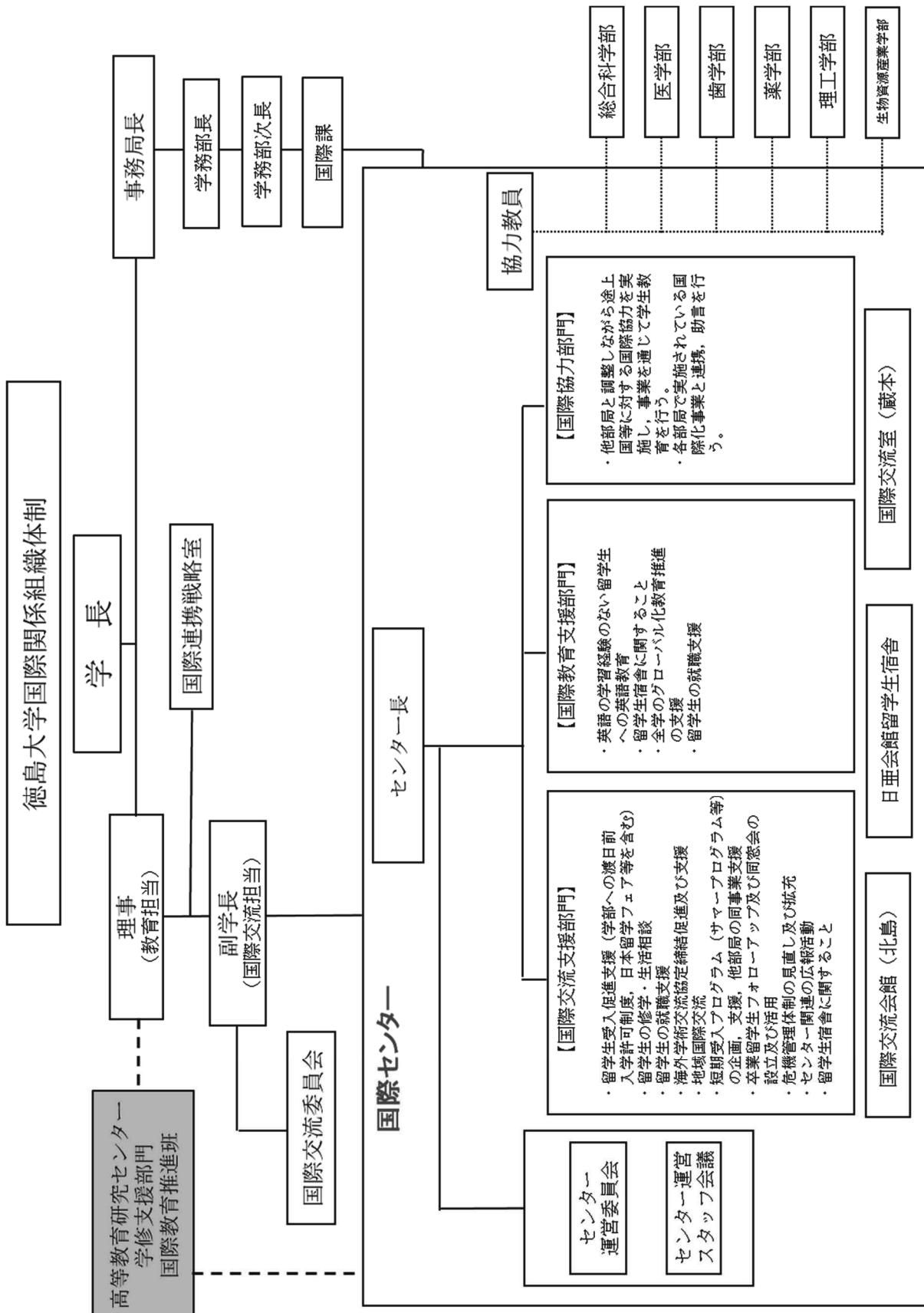
学術協定校一覧

大学間交流協定校（42 大学）			国・地域名
1	オークランド大学	(国立)	ニュージーランド
2	哈爾濱工業大学	(国立)	中国
3	フロリダアトランティック大学	(公立)	アメリカ
4	武漢大学	(国立)	中国
5	ガジャマダ大学	(国立)	インドネシア
6	慶北大学校	(国立)	韓国
7	韓国海洋大学校	(国立)	韓国
8	吉林大学	(国立)	中国
9	テキサス大学ヒューストンヘルスサイエンスセンター	(公立)	アメリカ
10	西安交通大学	(国立)	中国
11	南通大学	(国立)	中国
12	バーゼル大学	(国立)	スイス
13	北京郵電大学	(国立)	中国
14	ゴンダール大学	(国立)	エチオピア
15	モンゴル国立医科大学	(国立)	モンゴル
16	同濟大学	(国立)	中国
17	南京大学	(国立)	中国
18	ハノーバー医科大学	(国立)	ドイツ
19	モナシュ大学	(公立)	オーストラリア
20	マレーシアサインズ大学	(国立)	マレーシア
21	ソウル国立大学校	(国立)	韓国
22	サビトリバイ プーレ プネ大学	(公立)	インド
23	マレーシア工科大学	(国立)	マレーシア
24	マレーシア国民大学	(国立)	マレーシア
25	四川大学	(国立)	中国
26	マラヤ大学	(国立)	マレーシア
27	国立台湾科技大学	(国立)	台湾
28	マレーシアマラッカ技術大学	(公立)	マレーシア
29	ムハマディア大学	(私立)	インドネシア
30	ドンズー日本語学校	(私立)	ベトナム
31	ベトナム国立栄養院	(国立)	ベトナム
32	ベトナム国立農業大学	(国立)	ベトナム
33	キングモンクット工科大学トンブリ	(国立)	タイ
34	ボルドー大学	(国立)	フランス
35	ダナン大学	(国立)	ベトナム
36	南イリノイ大学	(公立)	アメリカ
37	トリニティウエスタン大学	(私立)	カナダ
38	パラナ連邦工科大学	(公立)	ブラジル
39	ミラノ大学	(公立)	イタリア
40	時事日本語学院	(私立)	韓国
41	東国大学校	(私立)	韓国
42	大連理工大学	(国立)	中国
部局間交流協定校（54 大学）			
1	トゥールーズ工科大学	(国立)	フランス
2	朝鮮大学校歯科大学	(私立)	韓国
3	復旦大学国際文化交流学院	(国立)	中国
4	ラインマイン応用科学大学	(公立)	ドイツ

5	中国医科大学口腔医学院	(国立)	中国
6	東義大学校大学院	(私立)	韓国
7	ノースカロライナ大学チャペルヒル校エシェルマン薬学部	(公立)	アメリカ
8	南台科技大学工学部	(私立)	台湾
9	大理大学薬学化学院	(公立)	中国
10	上海交通大学医学院附属第九人民医院	(国立)	中国
11	メトロポリア応用科学大学ヘルスプロモーション学科	(国立)	フィンランド
12	天津医科大学薬学院	(公立)	中国
13	北京航空航天大学自動化科学電気工程学院	(国立)	中国
14	メトロポリア応用科学大学保健看護学部	(国立)	フィンランド
15	ルンド大学人文神学部	(国立)	スウェーデン
16	ハントゥア一大学歯学部	(私立)	インドネシア
17	延世大学校バイオメディカル・エンジニアリング研究部	(私立)	韓国
18	延世大学校スペース・バイオサイエンス研究部	(私立)	韓国
19	国立嘉義大学人文芸術学院	(国立)	台湾
20	トリブバン大学医学部	(国立)	ネパール
21	ドクターババサヘブアンベドカルマラツワダ大学理学部	(公立)	インド
22	フィニステラーエ大学歯学部	(私立)	チリ
23	ビショップス大学	(私立)	カナダ
24	スルタンアゲンイスラミック大学歯学部	(私立)	インドネシア
25	ハサヌディン大学歯学部	(国立)	インドネシア
26	ノースマハラシュトラ大学（理学院群及び技術大学院）	(公立)	インド
27	バラティビドウヤピース ディームド大学工学部	(私立)	インド
28	ジャダプール大学（法学、経営学及び学際から構成される学部）	(公立)	インド
29	レイリア工科学院	(国立)	ポルトガル
30	育達科技大学人文社会学院	(私立)	台湾
31	東亜大学校考古美術史学科	(私立)	韓国
32	ラトビア生命科学技術大学言語センター	(国立)	ラトビア
33	コロラド大学ボルダー校	(公立)	アメリカ
34	スマトラ・ウタラ大学薬学部	(国立)	インドネシア
35	開南大学人文社会学院	(私立)	台湾
36	プリンスオブソンクラ大学看護学部	(公立)	タイ
37	セントポール大学フィリピン	(私立)	フィリピン
38	中国科学院広西植物研究所	(国立)	中国
39	ラトビア大学人文学部	(国立)	ラトビア
40	ベトナム国家大学ハノイ校外国语大学	(国立)	ベトナム
41	ブリティッシュコロンビア大学薬学部	(国立)	カナダ
42	韓国外国語大学校人文学部	(私立)	韓国
43	ザグレブ大学人文社会科学部	(国立)	クロアチア
44	ザグレブ大学クロアチア研究学部	(国立)	クロアチア
45	寧波大学外国语学院	(国立)	中国
46	マハサラスワティ・デンパサール大学歯学部	(私立)	インドネシア
47	モンゴル科学技術大学情報通信技術学部	(国立)	モンゴル
48	ウダヤナ大学	(国立)	インドネシア
49	スリハサンバ歯科大学	(私立)	インド
50	広東海洋大学農学部	(公立)	中国
51	ゲント大学文学哲学部	(公立)	ベルギー
52	シリマン大学看護学部	(私立)	フィリピン
53	マニパール歯科大学	(私立)	インド
54	SRM 歯科大学	(私立)	インド

(2020年2月1日時点)

国際センター・高等教育研究センター・国際課組織図



徳島大学国際センター規則

平成 14 年 3 月 27 日
規則第 1703 号制定

(趣旨)

第 1 条 この規則は、徳島大学学則（昭和 33 年規則第 9 号）第 4 条第 2 項の規定に基づき、徳島大学国際センター（以下「センター」という。）について必要な事項を定めるものとする。

(目的)

第 2 条 センターは、徳島大学（以下「本学」という。）の学内共同教育研究施設として、本学の国際交流事業を一元的に管理し、地域との共同事業を提案し、地域及び世界に開かれた交流拠点となると共に、外国人留学生（以下「留学生」という。）及び海外留学を希望する本学の学生（以下「留学希望者」という。）に対し、必要な教育、指導及び助言等を行い、日本人学生と留学生との相互教育の場を提供することを目的とする。

(業務)

第 3 条 センターは、次の各号に掲げる業務を行う。

- (1) 留学生に対する教育、指導、相談及び支援
- (2) 留学希望者に対する指導、相談及び支援
- (3) 国際交流活動の支援
- (4) 学術交流協定校及び国際関係機関との連携
- (5) 研究者の受入、派遣事業への支援
- (6) 国際協力に関すること。
- (7) その他前条の目的を達成するために必要な国際交流及び教育関係業務

(部門の設置)

第 4 条 前条の業務を遂行するため、センターに次の部門を置く。

- (1) 国際交流支援部門
- (2) 国際教育支援部門
- (3) 国際協力部門

(職員)

第 5 条 センターに、次の職員を置く。

- (1) センター長
- (2) 副センター長
- (3) 部門長
- (4) センター教員
- (5) その他必要な職員

(センター長)

第 6 条 センター長は、学長が指名する理事又は職員をもって充て、センターの業務を掌理する。

2 センター長の任期は、2 年とする。ただし、センター長が任期の途中で欠員となった場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

3 センター長は再任されることができる。

(副センター長)

第 7 条 副センター長は、センター教員のうちから学長が任命し、センター長の職務を補佐する。

2 副センター長の任期は、2 年とする。

3 副センター長は再任されることができる。

4 副センター長は、所属する部門の部門長を兼任する。

(協力教員)

第 8 条 センターに、センターの業務を円滑に実施するため、協力教員を置く。

2 協力教員は、原則として、各学部から 1 名ずつ選出するものとし、運営委員会の議を経て、学長が命ずる。

3 協力教員の任期は、2 年とする。

4 協力教員は再任されることができる。

5 協力教員は、センターが行う業務において、協力教員が所属する学部（当該学部を基礎とする大学院教育部を含む。）との連絡調整を行う。

(教員選考)

第 9 条 センターの教員選考は、次条に定める運営委員会の議を経て、学長が行う。

(運営委員会)

第10条 センターに、センターの管理運営に関する重要事項を審議するため、徳島大学国際センター運営委員会（以下「運営委員会」という。）を置く。

2 運営委員会について必要な事項は、別に定める。

(事務)

第11条 センターの事務は、学務部国際課において処理する。

(雑則)

第12条 この規則に定めるもののほか、センターについて必要な事項は、センター長が学長の承認を得て別に定める。

附 則

1 この規則は、平成14年4月1日から施行する。

2 徳島大学留学生支援センター規則（平成13年10月19日規則第1669号）は、廃止する。

附 則（平成16年3月19日規則第1867号改正）

この規則は、平成16年4月1日から施行する。

附 則（平成16年4月16日規則第74号改正）

この規則は、平成16年5月1日から施行する。

附 則（平成17年3月24日規則第160号改正）

1 この規則は、平成17年3月26日から施行する。

附 則（平成18年3月31日規則第123号改正）

この規則は、平成18年4月1日から施行する。

附 則（平成19年3月16日規則第71号改正）

1 この規則は、平成19年4月1日から施行する。

2 徳島大学留学生センター長選考規則（規則第1705号）は廃止する。

附 則（平成20年11月26日規則第27号改正）

1 この規則は、平成20年12月1日から施行する。

2 この規則の施行日の前日において徳島大学留学生センターの副センター長であった者については、この規則の施行日以降も引き続き副センター長として任命するものとし、その任期は、第7条第3項の規定にかかわらず、平成22年3月31日までとする。

附 則（平成21年3月31日規則第120号改正）

この規則は、平成21年4月1日から施行する。

附 則（平成22年4月1日規則第1号改正）

この規則は、平成22年4月1日から施行する。

附 則（平成25年3月29日規則第113号改正）

この規則は、平成25年4月1日から施行する。

附 則（平成26年4月15日規則第1号改正）

この規則は、平成26年4月15日から施行する。

附 則（平成27年3月17日規則第56号改正）

この規則は、平成27年4月1日から施行する。

附 則（平成28年3月16日規則第91号改正）

この規則は、平成28年4月1日から施行する。

附 則（平成28年5月30日規則第4号改正）

この規則は、平成28年6月1日から施行する。

附 則（平成29年5月8日規則第10号改正）

この規則は、平成29年5月8日から施行する。

附 則（平成30年3月27日規則第82号改正）

この規則は、平成30年4月1日から施行する。

附 則（平成31年3月29日規則第102号改正）

この規則は、平成31年4月1日から施行する。

徳島大学国際センター運営委員会規則

平成 14 年 3 月 27 日
規則第 1704 号制定

(趣旨)

第 1 条 この規則は、徳島大学国際センター規則（平成 14 年規則第 1703 号）第 10 条第 2 項の規定に基づき、徳島大学国際センター運営委員会（以下「運営委員会」という。）について必要な事項を定めるものとする。

(所掌事項)

第 2 条 運営委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) 徳島大学国際センター（以下「センター」という。）の管理運営の基本方針に関すること。
- (2) 教員の人事に関すること。
- (3) センターの予算概算の方針に関すること。
- (4) その他センターの管理運営に関する重要事項

2 運営委員会は、前項各号に掲げる事項のほかセンターの教育研究に関する事項及び国際交流に関する重要な事項を審議する。

(組織)

第 3 条 運営委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) センター長
- (2) センターの専任の教授及び准教授
- (3) 各学部から選出された教授 各 1 人
- (4) 先端酵素学研究所から選出された教授 1 人
- (5) センターの特任教授で運営委員会が必要と認める者
- (6) その他運営委員会が必要と認める者

2 前項第 3 号から第 6 号までの委員は、学長が命ずる。

(任期)

第 4 条 前条第 1 項第 3 号から第 6 号までの委員の任期は 2 年とする。ただし、委員が任期の途中で欠員となつた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

2 前項の委員は、再任されることができる。

(委員長)

第 5 条 運営委員会に委員長を置き、センター長をもって充てる。

2 委員長は、運営委員会を招集し、その議長となる。

3 委員長に事故があるときは、委員長があらかじめ指名する委員が、その職務を代理する。

(会議)

第 6 条 運営委員会は、委員の半数以上の出席がなければ会議を開くことができない。

2 議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(代理出席)

第 7 条 第 3 条第 1 項第 3 号及び第 4 号の委員が会議に出席できないときは、代理の者を出席させることができる。

(委員以外の者の出席)

第 8 条 運営委員会が必要と認めるときは、会議に委員以外の者の出席を求めて意見を聴くことができる。

(第 9 条 削除)

(専門委員会)

第 10 条 運営委員会に、専門委員会を置くことができる。

2 専門委員会について必要な事項は、運営委員会が別に定める。

(庶務)

第 11 条 運営委員会の庶務は、学務部国際課において処理する。

(雑則)

第 12 条 この規則に定めるもののほか、運営委員会について必要な事項は、運営委員会が別に定める。

附 則

この規則は、平成 14 年 4 月 1 日から施行する。

附 則（平成 14 年 12 月 20 日規則第 1734 号改正）抄

1 この規則は、平成 15 年 1 月 1 日から施行する。

附 則（平成 16 年 3 月 19 日規則第 1867 号改正）

この規則は、平成 16 年 4 月 1 日から施行する。

附 則（平成 17 年 3 月 24 日規則第 160 号改正）

1 この規則は、平成 17 年 3 月 26 日から施行する。

附 則（平成 18 年 3 月 31 日規則第 123 号改正）

この規則は、平成 18 年 4 月 1 日から施行する。

附 則（平成 18 年 3 月 16 日規則第 71 号改正）

この規則は、平成 19 年 4 月 1 日から施行する。

附 則（平成 20 年 3 月 21 日規則第 89 号改正）

この規則は、平成 20 年 4 月 1 日から施行する。

附 則（平成 20 年 11 月 26 日規則第 28 号改正）

1 この規則は、平成 20 年 12 月 1 日から施行する。

2 この規則の施行日の前日において徳島大学留学生センター運営委員会委員であった者については、この規則の施行日以降も引き続き運営委員会委員として任命するものとし、その任期は、第 4 条の規定にかかわらず、平成 22 年 3 月 31 日までとする。

附 則（平成 24 年 3 月 21 日規則第 45 号改正）

この規則は、平成 24 年 4 月 1 日から施行する。

附 則（平成 27 年 3 月 17 日規則第 56 号改正）

1 この規則は、平成 27 年 4 月 1 日から施行する。

2 この規則施行後最初に選出される委員の任期は、第 4 条第 1 項の規定にかかわらず、平成 28 年 3 月 31 日までとする。

附 則（平成 28 年 3 月 16 日規則第 92 号改正）

この規則は、平成 28 年 4 月 1 日から施行する。

附 則（平成 29 年 5 月 8 日規則第 10 号改正）

この規則は、平成 29 年 5 月 8 日から施行する。

附 則（平成 30 年 3 月 27 日規則第 82 号改正）

この規則は、平成 30 年 4 月 1 日から施行する。

徳島大学高等教育研究センター日本語研修コース規則

平成 31 年 4 月 1 日
高等教育研究センター長制定

(趣旨)

第 1 条 この規則は、徳島大学高等教育研究センター規則（平成 30 年度規則第 86 号）第 25 条第 2 項の規定に基づき、外国人留学生で日本語能力の不十分なものに対し日本語等の予備教育を行うために開設する徳島大学高等教育研究センター日本語研修コース（以下「日本語研修コース」という。）の実施について必要な事項を定めるものとする。

(受講資格)

第 2 条 日本語研修コースを受講することができる者は、次の各号のいずれかに該当する者とする。

(1) 国費外国人留学生制度実施要項（昭和 29 年 3 月 31 日文部大臣裁定）に定める研究留学生及び教員研修留学生のうち、日本語等の予備教育が必要であると認められた者

(2) 日韓共同理工系学部留学生事業実施要項（平成 12 年 8 月 1 日文部省学術国際局長裁定）に定める日韓共同理工系学部留学生のうち、日本語等の予備教育が必要であると認められた者

(3) 徳島大学学則（昭和 33 年規則第 9 号）第 49 条第 2 項の規定に基づく日本語等予備教育生

(4) その他外国人留学生で徳島大学高等教育研究センター長（以下「センター長」という。）が適当と認めた者

(受講の許可)

第 3 条 センター長は、日本語研修コースを受講しようとする者について、徳島大学高等教育研究センター学修支援部門国際教育推進班会議（以下「班会議」という。）の議を経て、受講を許可する。

(教育期間及び開始時期)

第 4 条 日本語研修コースの教育期間は 6 か月とし、その開始時期は 4 月及び 10 月とする。

(教育課程)

第 5 条 日本語研修コースの教育課程は、班会議の議を経て、センター長が別に定める。

(受講の中止)

第 6 条 日本語研修コースを受講する者（以下「受講者」という。）が受講を中止しようとするときは、その理由を付して、センター長に願い出なければならない。

2 前項の願い出があったときは、センター長は、班会議の議を経て、これを許可する。

3 センター長は、受講者が疾病その他の理由により受講を継続することができないと認めたときは、班会議の議を経て、受講の中止を命ずることができる。

(修了証書の授与)

第 7 条 センター長は、日本語研修コースの教育課程を修了した者に対して、修了証書を授与する。

(受講料)

第 8 条 受講者については、受講料を徴収しない。

(雑則)

第 9 条 この規則に定めるもののほか、日本語研修コースの実施について必要な事項は、班会議の議を経て、センター長が別に定める。

附 則

この規則は、平成 31 年 4 月 1 日から施行する。

国際センター・高等教育研究センター・国際課人員名簿 (2020年2月1日時点)

国際センター長

福井 清 副学長（国際交流担当）

高等教育研究センター学修支援部門国際教育推進班教員

橋本 智	班長 教授	(併) 国際センター教授
金 成梅	教授	(併) 国際センター教授
内藤 豪	特任教授	(併) 国際センター特任教授
坂田 浩	准教授	(併) 国際センター准教授
Tran Hoang Nam	講師	(併) 国際センター講師
田久保 浩	教授（総合科学部）	兼務教員
安澤 幹人	教授（理工学部）	兼務教員

国際センター運営委員会委員（国際センター教員を除く）

饗場 和彦	教授（総合科学部）
谷岡 哲也	教授（医学部）
市川 哲雄	教授（歯学部）
柏田 良樹	教授（薬学部）
森賀 俊広	教授（理工学部）
長宗 秀明	教授（生物資源産業学部）
坂口 末廣	教授（先端酵素学研究所）

国際課職員

課長	福川 美千代
副課長	松尾 麻里子
係長	折野 寛子
係長	川上 ちぐさ
主任	林 清美
事務員	古城 浩子
事務員	寺内 彩
特任事務員	竹内 光恵
事務補佐員	田村 真也子
事務補佐員（蔵本地区）	吉成 記子
事務補佐員（蔵本地区）	石井 詔子
事務補佐員（留学生県内定着促進事業）	山口 明日香
事務補佐員	安藝 紀子
事務補佐員	大塚 綾子
事務補佐員（国際交流会館）	田村 真子

2019 年度 徳島大学国際センター紀要・年報

編集発行： 徳島大学国際センター、徳島大学高等教育研究センター
徳島県徳島市南常三島町 1-1
徳島大学地域創生・国際交流会館 4 階
088-656-7491
<http://www.isc.tokushima-u.ac.jp>

発行日： 2020 年 3 月 31 日